

2. 結婚（未婚化・晩婚化）

（1）合計特殊出生率が低い原因

- 京都府の合計特殊出生率が低いのは、有配偶者における出生率の低さよりも、第一に未婚者が多いことの影響が強い。

○京都府の2010年有配偶出生率（現在結婚している15～49歳女性人口千人に対するその年の出生数）は全国18位（79.2‰）である一方、有配偶率（現在結婚している15～49歳女性の割合）は全国44位（46.1‰）（図表III-2-1-1・III-2-1-2）。

○2010年有配偶出生率の全国1位は沖縄県、47位は秋田県である。

○2010年有配偶率の全国1位は福井県、47位は東京都である。

○価値観、ライフスタイル、家族形態は多様化しているが、2010年の全国の出生数に占める婚外子（嫡出でない子）の割合は2.2%にとどまり、日本の出生の大多数は結婚している女性が担っている。

○少子化要因を考えるうえで、出生率の変化を、有配偶出生率と有配偶率の変化にわけて考えると、京都府の合計特殊出生率が低い要因は、有配偶出生率よりも有配偶率が低いことであると考えられる。

図表 III-2-1-1 有配偶出生率

(‰)

1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
沖 縄	鹿児島	宮 崎	熊 本	福 岡	佐 賀	長 崎	大 分	島 根	岡 山
115.2	91.8	91.7	90.4	90.2	89.9	87.3	86.6	83.5	82.8
11位	12位	13位	14位	15位	16位	17位	18位	19位	20位
広 島	鳥 取	山 口	高 知	香 川	愛 媛	滋 賀	京 都	大 阪	愛 知
82.4	82.3	82.0	81.1	81.0	79.7	79.5	79.2	79.1	78.2
21位	22位	23位	24位	25位	26位	27位	28位	29位	30位
福 井	兵 庫	福 島	静 岡	宮 城	東 京	徳 島	長 野	和歌山	石 川
77.5	77.1	77.0	76.6	76.3	76.2	75.7	75.4	75.0	74.9
31位	32位	33位	34位	35位	36位	37位	38位	39位	40位
新 潟	栃 木	岩 手	茨 城	群 馬	千 葉	山 形	三 重	山 梨	神奈川
74.8	74.6	74.5	74.4	73.7	73.6	73.0	72.9	72.8	72.6
41位	42位	43位	44位	45位	46位	47位	*‰(パーミル):1,000分率の単位記号		
北海道	青 森	埼 玉	岐 阜	奈 良	富 山	秋 田			
72.4	72.2	72.0	72.0	71.5	69.8	65.2			

【2010年国勢調査（総務省統計局）・人口動態統計（厚生労働省）から算出】

図表 III-2-1-2 有配偶率

(%)

1位	2位	3位	4位	4位	4位	7位	8位	9位	10位
福 井	富 山	三 重	長 野	静 岡	滋 賀	岐 阜	山 形	愛 知	栃 木
55.6	55.1	54.6	54.2	54.2	54.2	54.1	54.0	53.8	53.5
10位	12位	13位	14位	15位	16位	16位	18位	19位	19位
島 根	香 川	石 川	群 馬	秋 田	福 島	茨 城	新 潟	山 梨	広 島
53.5	53.4	53.1	53.0	52.8	52.7	52.7	52.4	52.0	52.0
21位	22位	23位	24位	25位	26位	27位	27位	29位	30位
千 葉	神奈川	岩 手	埼 玉	鳥 取	徳 島	和歌山	山 口	愛 媛	兵 庫
51.9	51.8	51.5	51.4	51.3	51.1	51.0	51.0	50.6	50.3
30位	32位	33位	34位	35位	36位	36位	36位	39位	40位
岡 山	宮 崎	大 分	青 森	佐 賀	宮 城	奈 良	熊 本	長 崎	鹿児島
50.3	49.8	49.6	49.5	49.3	49.0	49.0	49.0	48.8	48.5
41位	42位	43位	44位	44位	46位	47位	【2010年国勢調査（総務省統計局）から算出】		
北海道	高 知	大 阪	京 都	沖 縄	福 岡	東 京			
47.5	47.3	47.1	46.1	46.1	45.9	44.3			

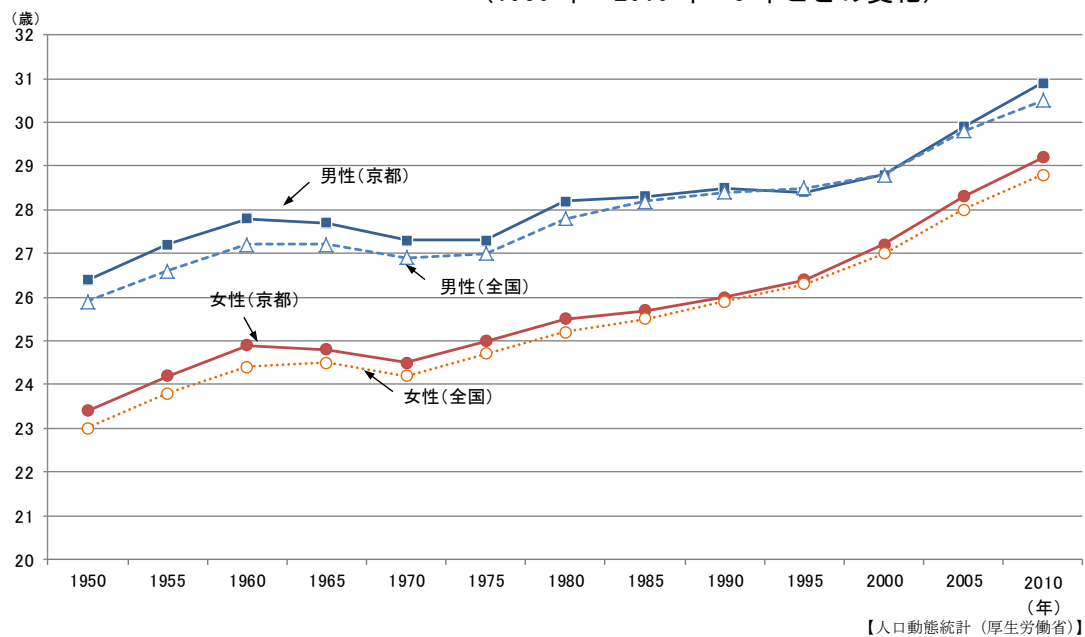
(2) 未婚化・晩婚化の進行

●京都府は男女とも晩婚。女性は未婚傾向が強い。

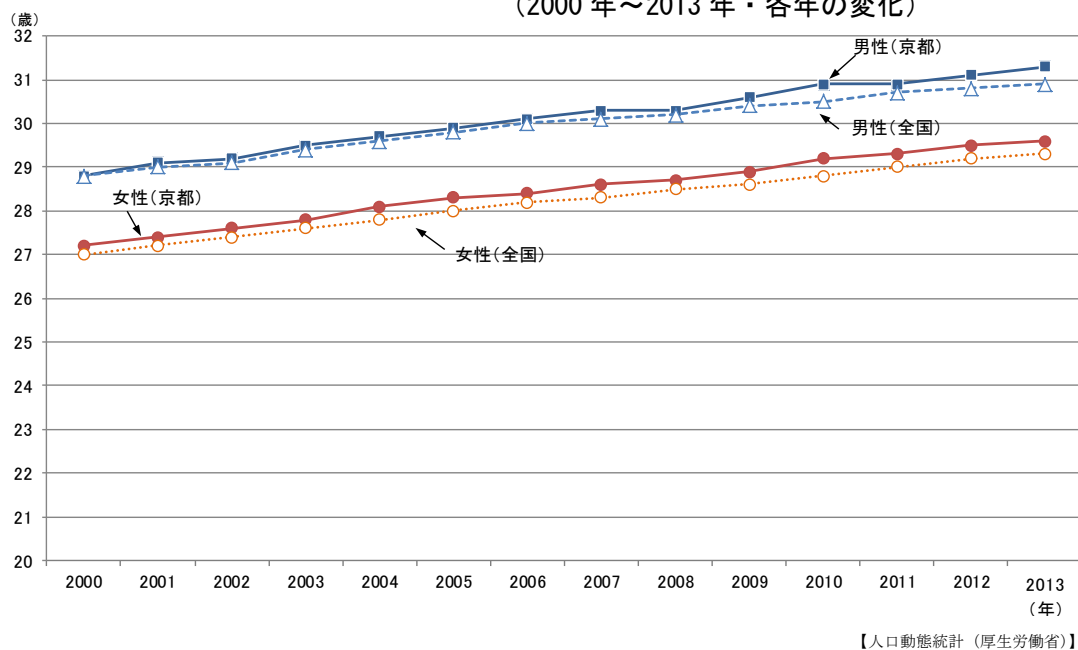
○2013 年の京都府の平均初婚年齢は、男性 31.3 歳（全国 3 位）、女性 29.6 歳（全国 3 位）である（図表 III-2-2-2）。2000 年と比較して、男性では 2.5 歳、女性では 2.4 歳、平均が上昇している。

○全国平均は男性 30.9 歳（2000 年+2.1 歳）、女性 29.3 歳（2000 年+2.3 歳）である。

図表 III-2-2-1 全国・京都府の平均初婚年齢の推移
(1950 年～2010 年・5 年ごとの変化)

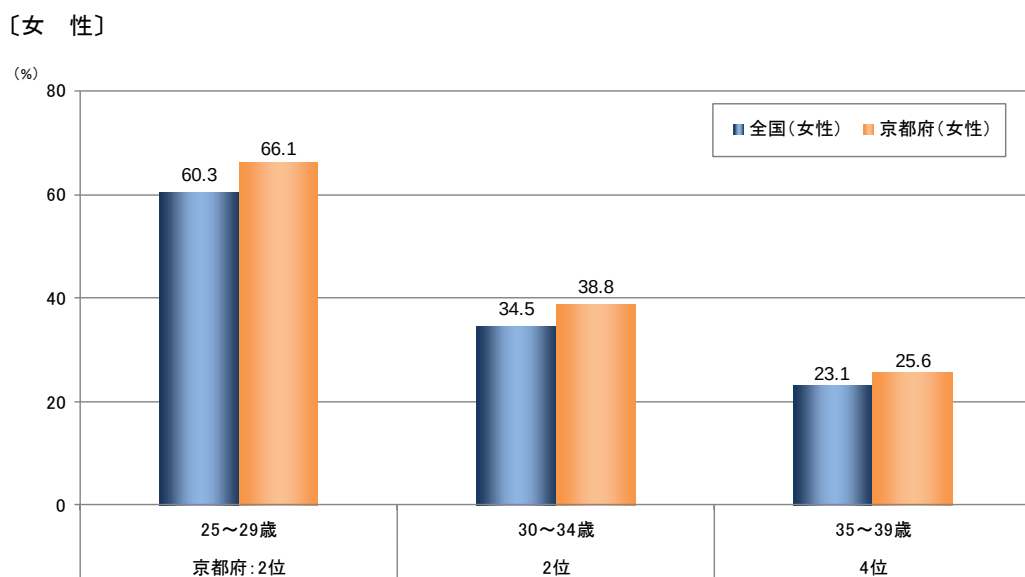
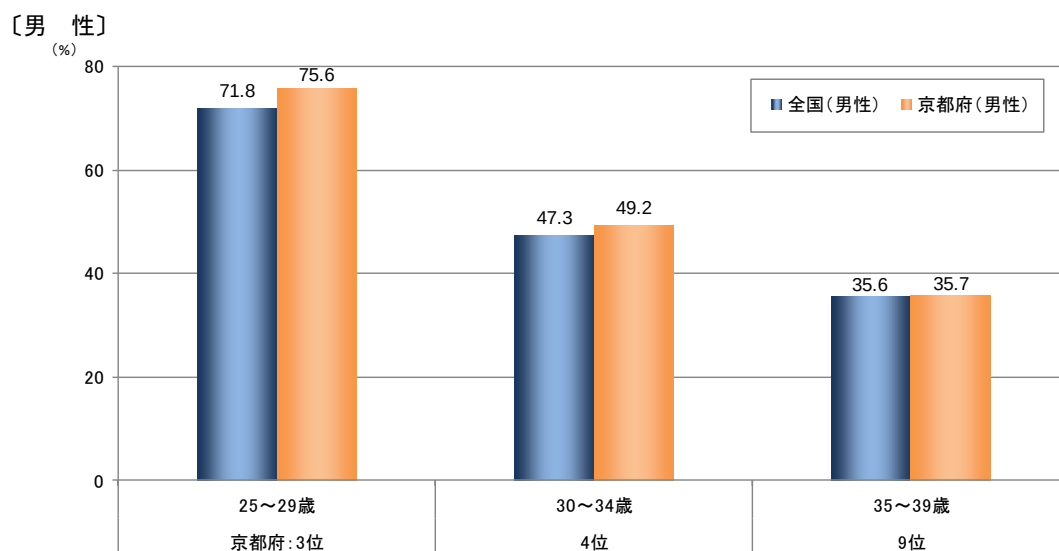


図表 III-2-2-2 全国・京都府の平均初婚年齢の推移
(2000 年～2013 年・各年の変化)



- 京都府の 25～34 歳未婚率は男女とも高く、特に 25～29 歳の未婚率は男性が全国 3 位、女性是全国 2 位で、全国平均との差が大きい（図表 III-2-2-3）。
- 男性は 35～39 歳で未婚率が全国平均に近づくが、女性は、35～39 歳でも未婚率が高く、47 都道府県中 4 位である。

図表 III-2-2-3 全国・京都府の未婚率



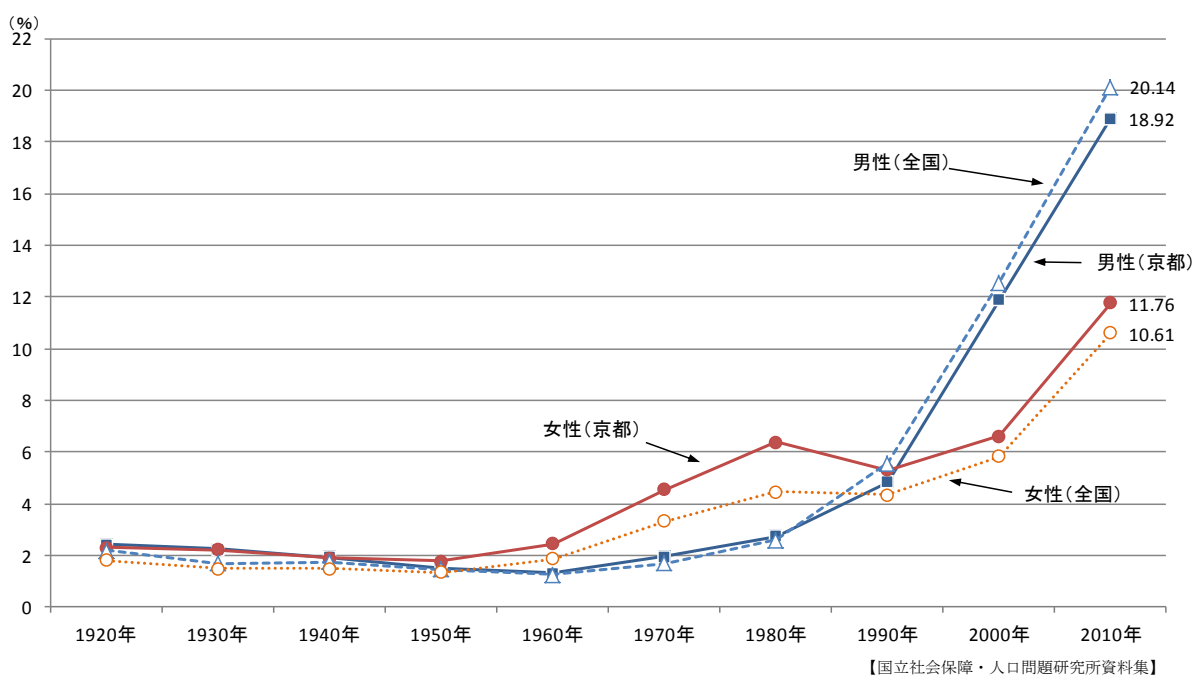
【2010 年国勢調査（総務省統計局）】

(3) 生涯未婚率の上昇

●京都府の女性の生涯未婚率は、1920 年～2010 年の間つねに 10 位以内。

- 1920 年～2010 年の生涯未婚率（50 歳時の未婚率）をみると（図表 III-2-3-1）、全国的にも急激に未婚化が進行している。
- 京都府の相対的な位置をみると、1920 年～2010 年の間、男性の生涯未婚率は全国 5 位～30 位で変動しているが、女性は常に 10 位以内であり、未婚傾向が強い。
- 2010 年の京都府の生涯未婚率は、男性 26 位（18.92%）、女性 7 位（11.76%）であり、2000 年と比較して、男性で 7.02 ポイント、女性で 5.15 ポイント上昇している。
- 全国平均は、男性 20.14%（2000 年+7.57 ポイント）、女性 10.61%（2000 年+4.79 ポイント）である。

図表 III-2-3-1 京都府・全国の生涯未婚率の推移（1920 年～2010 年）



- 京都府は、人口 10 万人当たりの大学生数が 2013 年全国 1 位（「学校基本調査」文部科学省、「人口推計」総務省統計局より算出）であり、学生が多いことが特徴である。
- 未婚率が高い要因の一つに学生が多いという点があげられるが、大学生・大学院生の多い 20～24 歳以外の年代でも、特に女性の未婚率が高い。また、生涯未婚率も女性で高い。学生が多いこと以外の要因も、影響していると考えられる。

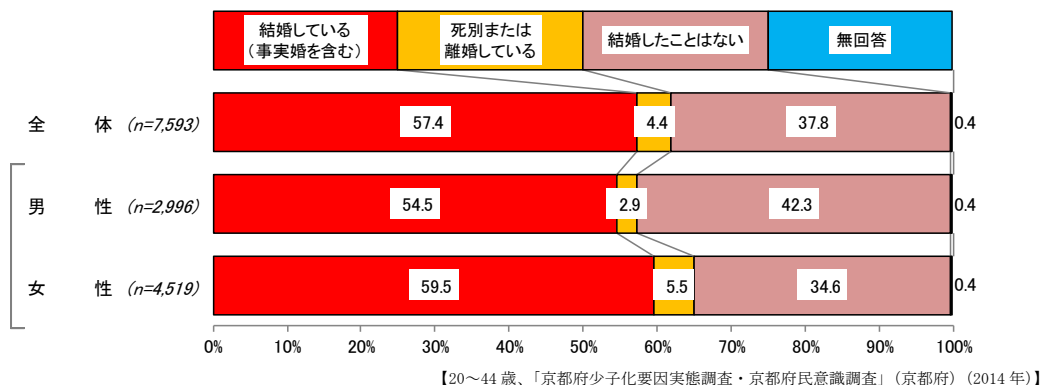
(4) 婚姻状況

●意識調査でみても、全国に比して、男女とも「結婚している」者が少ない。

○「京都府民意識調査」から、婚姻状況をみると（図表 III-2-4-1）、京都府の 20～44 歳のうち、男性の 54.5%、女性の 59.5%は結婚している。

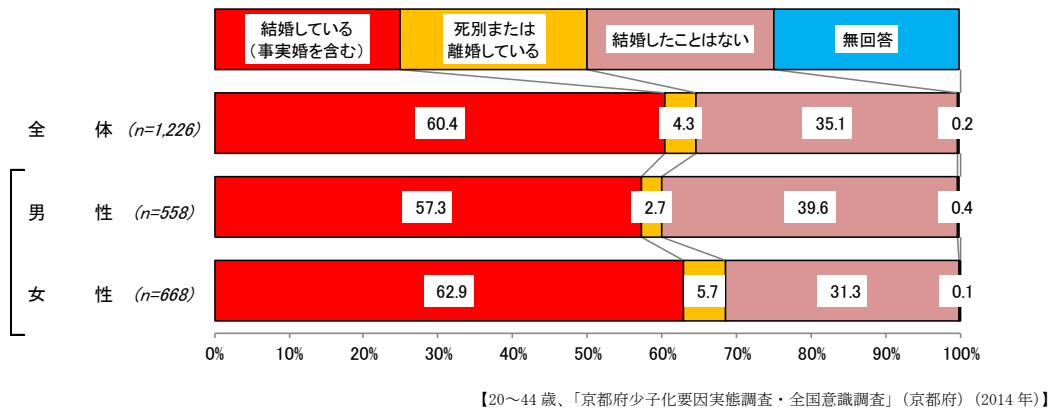
○全国調査と比べると（図表 III-2-4-2）、「結婚している」という者は、男女とも京都府の方がやや少ない。

図表 III-2-4-1 婚姻状況



〈参考：全国調査〉

図表 III-2-4-2 婚姻状況



（５）将来の結婚意向

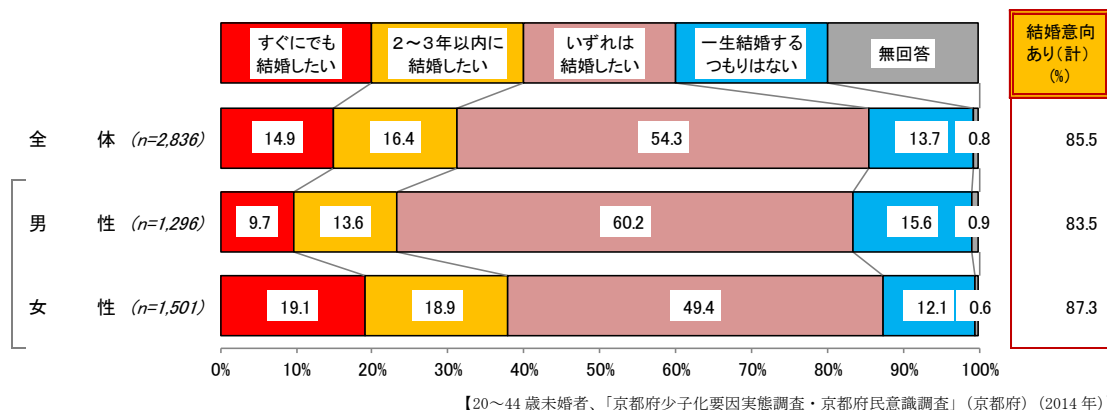
●未婚者の結婚意向は強く、特に若い年代・女性で結婚意向が強い。

○「京都府民意識調査」によると、京都府の 20～44 歳未婚者のうち 85.5%は、「すぐにも結婚したい」「2～3 年以内に結婚したい」「いずれは結婚したい」という結婚意向を示している（図表 III-2-5-1）。

○男性より女性の方が、結婚意向は強い。

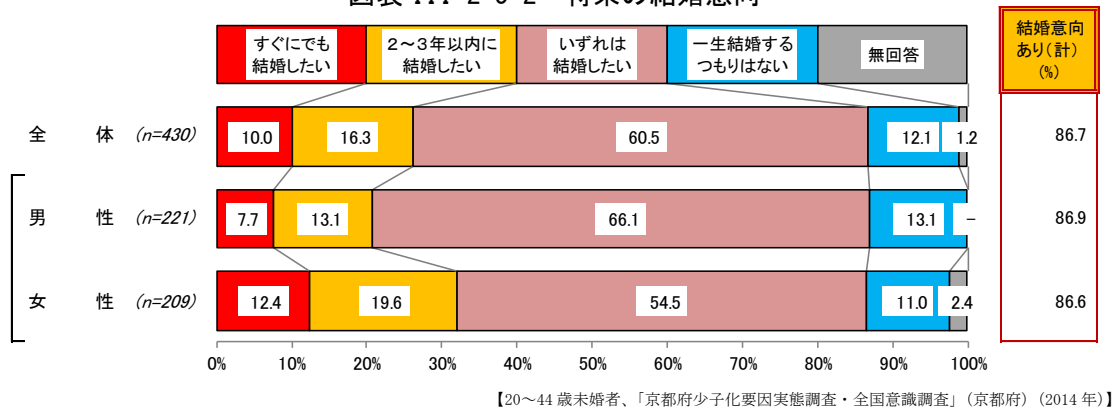
○全国調査と比べても（図表 III-2-5-2）、結婚意向に大きな差はみられないが、「すぐにも結婚したい」という回答は、京都府の女性で多い。

図表 III-2-5-1 将来の結婚意向



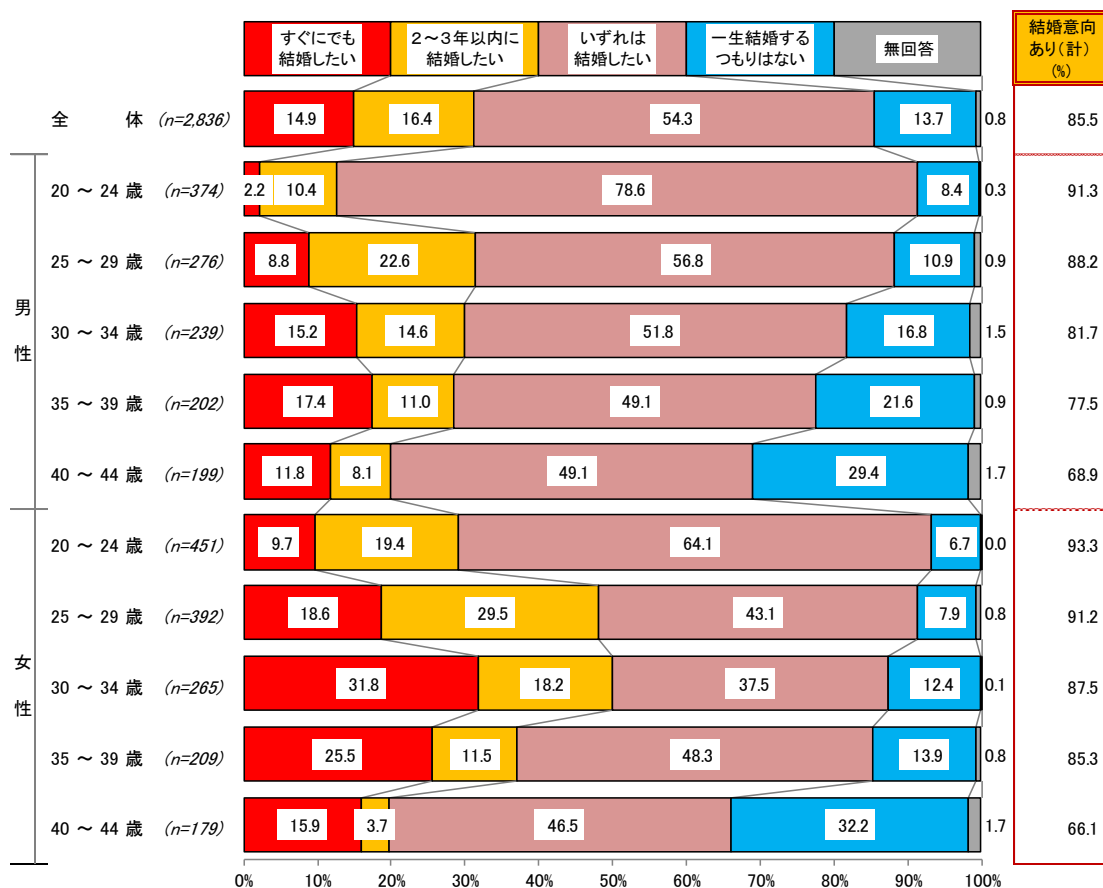
〈参考：全国調査〉

図表 III-2-5-2 将来の結婚意向



○年代別にみると（図表 III-2-5-3）、若い年代ほど結婚意向が強い。年齢が上がるとともに結婚意向は弱くなるが、「すぐにでも結婚したい」という強い意向は、男性は 30 代後半まで、女性は 30 代前半まで、年代が上がるとともに強くなっている。

図表 III-2-5-3 将来の結婚意向（年代別）



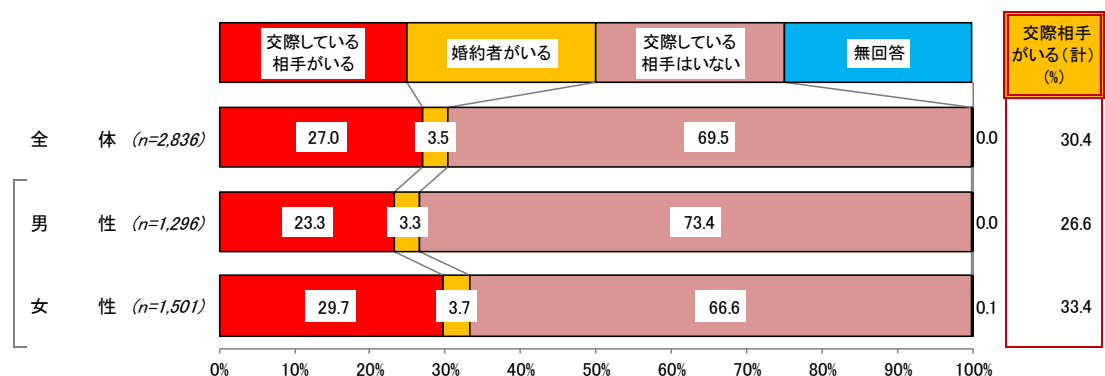
【20～44 歳未婚者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」（京都府）（2014 年）】

（６）交際相手の有無

- 京都府の未婚男性のおよそ４人に１人、女性の３人に１人は交際相手もしくは婚約者がおり、全国調査と比べて低いわけではない。
- 未婚の男性非正規雇用者は、「交際している相手がいる」という回答は他の有職者や学生と同程度だが、「婚約者がいる」という回答が他の層よりも少ない。

- 「京都府民意識調査」から、未婚者の交際相手の有無をみると（図表 III-2-6-1）、京都府の 20～44 歳未婚者のうち、男性 26.6%、女性 33.4%は『交際相手がいる』（「交際している相手がいる」もしくは「婚約者がいる」）と回答している。
- 全国調査と比べても（図表 III-2-6-2）、交際相手がいる者の割合に大きな差はみられない。

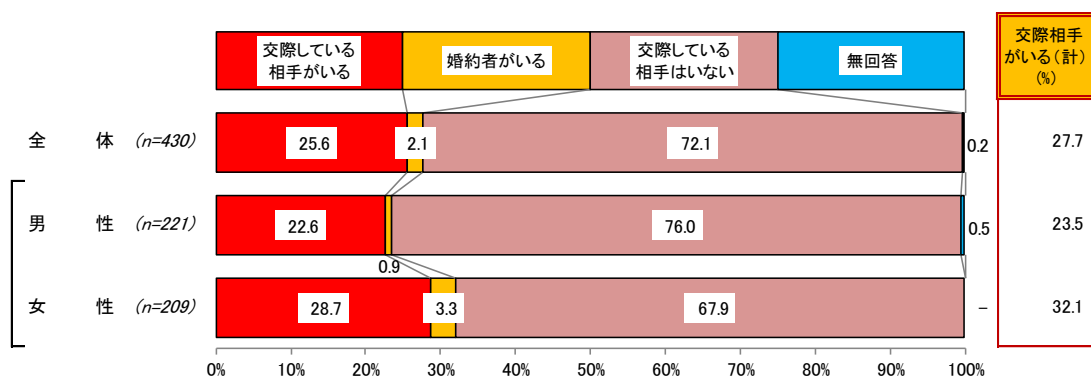
図表 III-2-6-1 交際相手の有無



【20～44 歳未婚者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」（京都府）（2014 年）】

〈参考：全国調査〉

図表 III-2-6-2 交際相手の有無

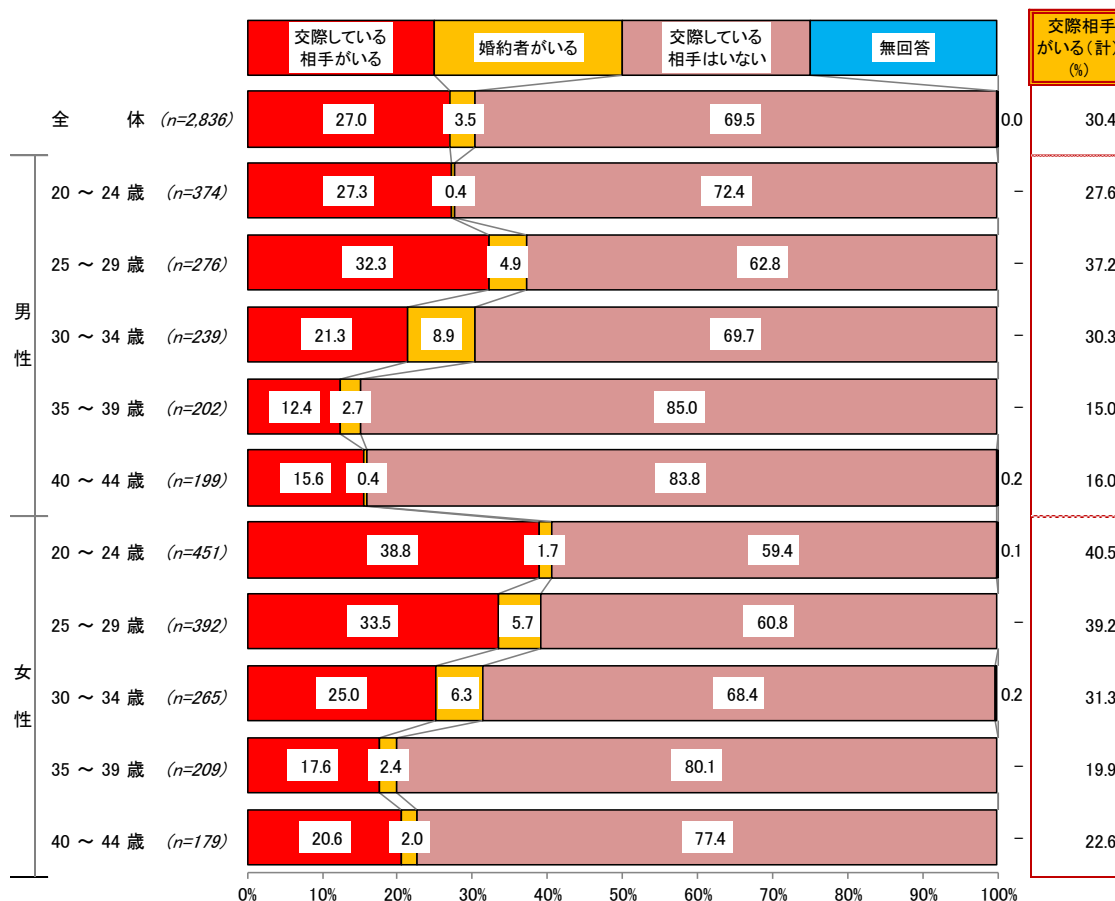


【20～44 歳未婚者、「京都府少子化要因実態調査・全国意識調査」（京都府）（2014 年）】

○年代別に、未婚者の交際相手の有無をみると（図表 III-2-6-3）、『交際相手がいる』という者は、男性では 25～29 歳で最も高く、3 割台後半である。20～24 歳で 2 割台後半、30～34 歳で 3 割であるが、30 代後半以降は 1 割台半ばにとどまる。

○女性では、20 代で『交際相手がいる』という者が最も多く、4 割を占めるが、30～34 歳で 3 割強、30 代後半以降では 2 割前後となっている。

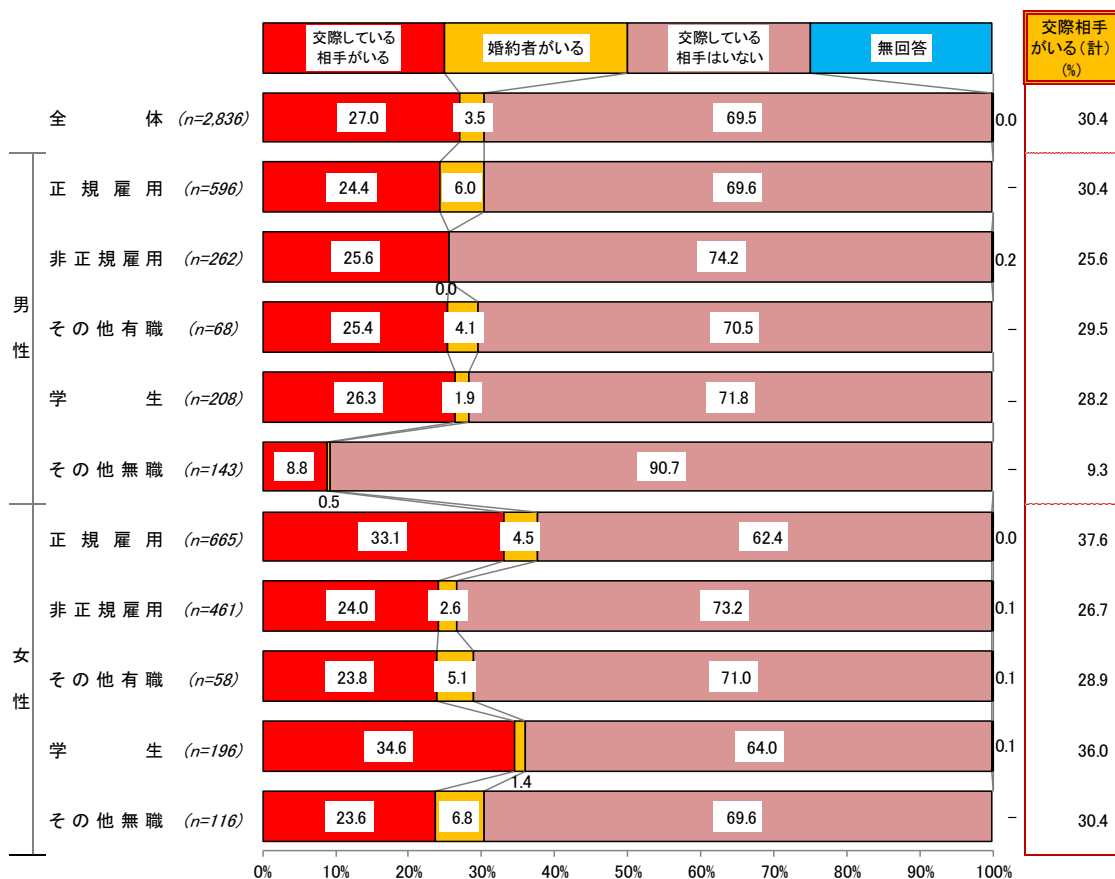
図表 III-2-6-3 交際相手の有無（年代別）



【20～44 歳未婚者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」（京都府）（2014 年）】

- 就労状況別に、未婚者の交際相手の有無をみると（図表 III-2-6-4）、『交際相手がいる』という者は、男性では正規雇用、その他有職、学生でそれぞれ 3 割前後である。非正規雇用者は、「交際している相手がいる」という回答は 25.6%で他の有職者や学生と同程度だが、「婚約者がいる」という回答が他の層よりも少ない。
- 学生以外のその他無職者の男性で、『交際相手がいる』という者は 1 割未満にとどまる。
- 女性では、正規雇用者と学生で『交際相手がいる』という者が最も多く、3 割台後半である。非正規雇用者とその他有職者では 2 割台後半、その他無職では 3 割となっている。

図表 III-2-6-4 交際相手の有無（就労状況別）



【20～44 歳未婚者、「京都市府少子化要因実態調査・京都市府民意調査」（京都市）（2014 年）】

(7) 結婚を希望する状況

- 結婚する条件として、特に30代前半までの男性は、経済的・精神的余裕がないと結婚できないと感じている。女性は経済的余裕に加え、「希望の条件を満たす相手にめぐり会う」こともあげている。
- 20代後半・30代前半女性は「子どもが欲しくなる」ことも条件。
- 男性の非正規雇用者は、経済的余裕に加え「雇用が安定すること」が必要と感じている。

○「京都府民意識調査」によると（図表 III-2-7-1）、結婚意向のある未婚者が結婚を決める状況として、男性では「経済的余裕」がトップ、次いで「精神的余裕」があげられている。

○女性は「希望の条件を満たす相手にめぐり会う」「経済的余裕」のいずれも高い。

○女性は「子どもが欲しくなる」（男性 22.0%、女性 38.3%）、男性は「雇用が安定する」（同 35.3%、20.6%）が多く、男女差がみられる。

○全国調査と比べても、大きな差はみられない（図表 III-2-7-2）。

図表 III-2-7-1 結婚を希望する状況

		経済的に余裕ができる	精神的に余裕ができる	自分の希望の条件を満たす相手にめぐり会う	交際相手と知り合う（出会い）機会がある	結婚の必要性を感じる	交際相手とうまく付き合えるようになる	子どもが欲しくなる	雇用が安定する	交際相手が、親や周囲に認められる	結婚生活のための住居のめどがたつ	まわりの友人が結婚しはじめる	自分の自由になる時間がある	その他の	特にな	わか	無回答
全 体	(n=2,422)	49.8	39.9	39.8	37.2	35.8	31.5	31.2	26.9	23.5	15.9	13.6	9.5	2.0	2.0	3.0	0.2
男 性	(n=1,082)	59.8	40.7	34.5	34.9	35.6	28.0	22.0	35.3	17.3	15.2	9.1	8.1	1.0	2.0	3.8	0.2
女 性	(n=1,311)	42.7	39.8	43.6	39.2	36.1	34.6	38.3	20.6	28.4	16.8	17.1	10.5	2.8	2.0	2.3	0.1

【20～44歳未婚・結婚意向者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」（京都府）（2014年）】

〈参考：全国調査〉

図表 III-2-7-2 結婚を希望する状況

		経済的に余裕ができる	精神的に余裕ができる	自分の希望の条件を満たす相手にめぐり会う	交際相手と知り合う（出会い）機会がある	結婚の必要性を感じる	交際相手とうまく付き合えるようになる	子どもが欲しくなる	雇用が安定する	交際相手が、親や周囲に認められる	結婚生活のための住居のめどがたつ	まわりの友人が結婚しはじめる	自分の自由になる時間がある	その他の	特にな	わか	無回答
全 体	(n=373)	52.5	41.0	40.5	38.9	37.3	33.5	27.3	24.1	17.7	14.2	11.0	9.7	0.8	2.9	2.1	-
男 性	(n=192)	57.3	42.7	37.5	38.5	35.4	30.7	24.5	32.8	14.1	9.9	12.0	9.4	1.6	3.1	3.6	-
女 性	(n=181)	47.5	39.2	43.6	39.2	39.2	36.5	30.4	14.9	21.5	18.8	9.9	9.9	-	2.8	0.6	-

【20～44歳未婚・結婚意向者、「京都府少子化要因実態調査・全国意識調査」（京都府）（2014年）】

○年代別にみると（図表 III-2-7-3）、男性はいずれの年代でも「経済的余裕」がトップ。また、30 代前半までは「雇用の安定」「精神的余裕」も上位に入っている。

○女性の 20 代後半から 30 代前半は、「子どもが欲しくなる」も上位。

図表 III-2-7-3 結婚を希望する状況（年代別）

			(%)				
		n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体		(2,422)	経済的に余裕ができる (49.8)	精神的に余裕ができる (39.9)	希望の条件を満たす相手にめぐり会う (39.8)	交際相手と知り合う機会がある (37.2)	結婚の必要性を感じる (35.8)
男 性	20～24歳	(340)	経済的に余裕ができる (68.2)	雇用の安定する (43.2)	精神的に余裕ができる (42.7)	交際相手と知り合う機会がある (33.6)	希望の条件を満たす相手にめぐり会う (32.6)
	25～29歳	(239)	経済的に余裕ができる (65.8)	精神的に余裕ができる (44.7)	雇用の安定する (36.4)	希望の条件を満たす相手にめぐり会う (33.8)	結婚の必要性を感じる (33.4)
	30～34歳	(195)	経済的に余裕ができる (55.7)	結婚の必要性を感じる (37.4)	精神的に余裕ができる (35.7)	雇用の安定する (34.3)	交際相手と知り合う機会がある (30.9)
	35～39歳	(159)	経済的に余裕ができる (49.1)	交際相手と知り合う機会がある (48.5)	希望の条件を満たす相手にめぐり会う (47.1)	結婚の必要性を感じる (40.0)	精神的に余裕ができる (37.7)
	40～44歳	(145)	経済的に余裕ができる (43.1)	結婚の必要性を感じる (42.7)	希望の条件を満たす相手にめぐり会う (38.3)	精神的に余裕ができる (37.1)	交際相手と知り合う機会がある (36.9)
女 性	20～24歳	(416)	経済的に余裕ができる (57.3)	精神的に余裕ができる (44.8)	結婚の必要性を感じる (39.9)	子どもが欲しくなる (39.7)	希望の条件を満たす相手にめぐり会う (39.5)
	25～29歳	(362)	希望の条件を満たす相手にめぐり会う (45.5)	子どもが欲しくなる (45.2)	経済的に余裕ができる (44.8)	交際相手と知り合う機会がある (40.6)	結婚の必要性を感じる (38.4)
	30～34歳	(231)	子どもが欲しくなる (44.9)	希望の条件を満たす相手にめぐり会う (44.2)	精神的に余裕ができる (43.7)	交際相手と知り合う機会がある (42.0)	相手とうまく付き合えるようになる (38.6)
	35～39歳	(179)	交際相手と知り合う機会がある (44.6)	希望の条件を満たす相手にめぐり会う (41.2)	精神的に余裕ができる (34.4)	結婚の必要性を感じる (33.3)	相手とうまく付き合えるようになる (28.7)
	40～44歳	(120)	希望の条件を満たす相手にめぐり会う (54.2)	交際相手と知り合う機会がある (48.3)	精神的に余裕ができる (29.2)	相手とうまく付き合えるようになる (26.6)	結婚の必要性を感じる (26.2)

【20～44 歳未婚・結婚意向者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」（京都府）（2014 年）】

○就労状況別にみると（図表 III-2-7-4）、男性は就労状況にかかわらず「経済的余裕」がトップだが、非正規雇用者では「雇用が安定する」が第 2 位にあげられ、経済的余裕に加えて「雇用の安定」が必要と感じている。

○学生も、結婚を決める状況としては、男女とも「経済的余裕」が最も多い。男性は、次いで「雇用が安定する」「精神的余裕」であり、非正規雇用の男性と傾向が似ている。女性は、次いで「結婚の必要性を感じる」が多い。

図表 III-2-7-4 結婚を希望する状況（就労状況別）

		無回答																(%)
		経済的に余裕ができる	精神的に余裕ができる	自分の希望の条件を満たす相手にめぐり会う	交際相手と知り合う（出会いの機会がある）	結婚の必要性を感じる	交際相手とうまく付き合えるようになる	子どもが欲しくなる	雇用が安定する	交際相手が、親や周囲に認められる	結婚生活のための住居のめどがたつ	まわりの友人が結婚しはじめる	自分の自由になる時間がある	その他	特にな	わからない	無回答	
男性	全体 (n=2,422)	49.8	39.9	39.8	37.2	35.8	31.5	31.2	26.9	23.5	15.9	13.6	9.5	2.0	2.0	3.0	0.2	
	正 規 雇 用 (n=512)	53.6	38.3	34.8	34.5	38.7	28.5	22.9	17.6	16.0	12.2	11.4	10.3	0.9	2.1	2.5	0.4	
	非 正 規 雇 用 (n=217)	58.0	40.9	33.5	32.3	33.4	29.7	21.8	52.5	21.6	16.9	5.6	6.2	1.1	0.7	7.5	-	
	その他有職 (n=59)	48.2	23.5	32.9	36.1	33.8	12.4	21.5	17.1	13.5	8.6	4.9	2.4	2.3	5.2	3.4	-	
	学 生 (n=193)	77.6	45.9	36.1	36.2	30.5	32.4	23.8	55.0	20.5	20.7	8.7	6.6	-	0.8	3.2	-	
	その他無職 (n=87)	58.5	51.6	29.2	37.3	38.8	21.2	14.6	53.0	10.3	20.3	10.2	8.9	3.2	5.4	2.1	0.7	
女性	正 規 雇 用 (n=612)	39.8	39.8	45.1	40.1	36.3	38.1	42.4	13.0	35.5	13.5	22.1	9.9	2.4	1.8	1.7	-	
	非 正 規 雇 用 (n=391)	39.7	38.6	41.4	42.1	31.3	31.4	37.3	24.3	23.2	18.6	14.9	9.7	3.9	1.3	3.6	0.4	
	その他有職 (n=46)	51.1	44.9	51.6	37.5	49.0	28.5	21.5	24.6	6.2	16.1	13.7	18.2	3.6	5.0	2.8	-	
	学 生 (n=181)	53.5	37.3	41.4	32.0	44.4	32.7	33.1	31.9	23.7	22.3	8.6	9.3	0.9	3.6	1.1	-	
	その他無職 (n=76)	46.8	45.5	42.4	38.5	29.0	31.3	37.3	33.1	23.4	22.0	11.1	16.0	5.2	1.3	3.0	-	

【20～44 歳未婚・結婚意向者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意調査」（京都府）（2014 年）】

〈当事者・現場の声から〉

＜京都府内大学生(男性)インタビュー＞

- ・ 結婚して、子どもを欲しいと思う。
- ・ 自分の両親の仲が良いので、結婚にはいいイメージがある。
- ・ 結婚すると社会人として一人前に見てもらえる。
- ・ 誰かのために働くことはモチベーションになる。
- ・ 結婚には経済的な余裕が必要。(大学卒業後)6年ぐらい働いて、地盤を固めてから30歳前くらいで結婚したい。
- ・ 学生結婚は、相手の親に認められていることが大前提。基本は経済力がついてから。
- ・ 学生結婚はしてもいいと思うが、仕方がなく結婚するのはいやだ。
- ・ 学生結婚すると、学生時代の自由さや時間の余裕がなくなる。
- ・ 就職内定先の同期には、学生結婚をしている人もいて、企業側は、責任感がある、背負う者がある者は強いなど、好意的な感じで受け止めていた。

＜京都府内大学生(女性)インタビュー＞

- ・ 結婚することによって、社会に認めてもらえることなど、お互いにメリットがある。
- ・ 自分のキャリア形成の中でいつ結婚するかという問題はあるが、いずれは結婚したい。
- ・ 他人と一緒にいられるようになったら、結婚と思う。
- ・ 結婚はしたいが、家族が好きなので、家族と離れたくない。
- ・ 結婚して、今の生活環境よりレベルを落とすたくはない。現在と同じレベルの生活ができる経済力が必要。
- ・ 結婚することは、子どもを持つということ。子どもを育てられる経済力が必要。
- ・ 愛も大切だが、経済力がより重要。結婚を考えて付き合う人については、経済力をみる。単なる付き合う相手と、結婚する相手は違う。
- ・ 結婚は、(映画の)「三丁目の夕日」の世界ではないので、ああいう生活は難しい。
- ・ 相手にやりたいことがあって、非正規雇用等で働いているなら、それは理解できる。
- ・ 医学部には学生結婚をしている人がいる。6年制で学生期間が長い。卒業すると研修医になるので、忙しすぎて結婚している暇がないと聞く。
- ・ 親に学費を出してもらっている以上、学生結婚は考えられない。学費が安かったり、支給型の奨学金があったり、学費に自分で責任を持てたら考えるかもしれない。

(8) 結婚しない理由

- 結婚するつもりがない理由として、男性は「経済的な責任が重くなる」、女性は「自分の時間を失いたくない」「結婚相手として適当な人がいない」がトップ。
- 女性は、「経済的なこと以外の責任が重くなる」が男性よりも多い。
- 「経済的な責任が重くなる」と「結婚相手として適当な人がいない」は、全国調査よりも府民調査で、やや多くあげられている。

- 「京都府民意識調査」によると（図表 III-2-8-1）、結婚するつもりのない理由は、男性は「経済的な責任が重くなる」が突出して多い。
- 女性は「自分の時間を失いたくない」と「結婚相手として適当な人がいない」が上位。「恋愛が面倒、うまく付き合えない」に次いで 4 番目に「経済的なこと以外の責任が重くなる」があげられており、男性より 12 ポイント上回っている。
- 全国調査と比較すると（図表 III-2-8-2）、「経済的な責任が重くなる」と「結婚相手として適当な人がいない」は、府民調査で全国調査よりやや多くあげられている。

図表 III-2-8-1 結婚しない理由

		自分の時間を失いたくない	経済的な責任が重くなる	結婚相手として適当な人がいない	恋愛が面倒、うまく付き合えない	と親せき付き合いなど、経済的なこと以外の責任が重くなる	子どもが欲しくない	子育てが大変そう	仕事（学業）との両立が難しい	離婚が不安である	姓を変えるのに抵抗がある	その他の	無回答
全 体	(n=387)	41.1	39.5	36.5	33.0	23.2	12.6	10.9	9.6	5.0	1.1	17.6	1.3
男 性	(n=200)	43.4	63.0	33.5	33.1	17.8	9.0	11.1	10.6	3.3	-	12.2	0.2
女 性	(n=178)	40.1	14.6	39.8	32.8	29.3	16.6	10.9	9.0	6.9	2.3	23.7	2.0

【20～44 歳未婚・結婚非意向者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」（京都府）（2014 年）】

〈参考：全国調査〉

図表 III-2-8-2 結婚しない理由

		自分の時間を失いたくない	恋愛が面倒、うまく付き合えない	経済的な責任が重くなる	と親せき付き合いなど、経済的なこと以外の責任が重くなる	結婚相手として適当な人がいない	子どもが欲しくない	子育てが大変そう	仕事（学業）との両立が難しい	姓を変えるのに抵抗がある	離婚が不安である	その他の	無回答
全 体	(n=52)	57.7	42.3	32.7	25.0	23.1	15.4	9.6	3.8	3.8	3.8	11.5	1.9
男 性	(n=29)	48.3	44.8	48.3	20.7	20.7	10.3	6.9	3.4	-	3.4	13.8	-
女 性	(n=23)	69.6	39.1	13.0	30.4	26.1	21.7	13.0	4.3	8.7	4.3	8.7	4.3

【20～44 歳未婚・結婚非意向者、「京都府少子化要因実態調査・全国意識調査」（京都府）（2014 年）】

(9) 居住地の自治体に期待する結婚支援事業

- 自治体の結婚支援事業の希望としては、男女とも「新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給」「結婚祝い金の支給」が上位。
- 「出会いの場・婚活イベントの提供」は、男性30代と女性の20代後半以降で、期待が他の年代よりも大きい。

○「京都府民意識調査」によると、男女とも「新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給」と「結婚祝い金の支給」への期待が最も大きく、全国に比しても期待が大きくなっている(図表 III-2-9-1・III-2-9-2)。

図表 III-2-9-1 居住地の自治体に期待する結婚支援事業

		新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給	結婚祝い金の支給	出会いの場・婚活イベントの提供・実施	結婚相談窓口の設置	交際術、ファッションの講座の実施	国際結婚を支援するための事業	結婚観・人生観等についての講座の実施	その他	特に起こってもらいたい事業はない	無回答
全体	(n=2,422)	50.0	49.3	30.7	11.9	6.3	5.5	4.7	2.0	21.8	1.3
男性	(n=1,082)	46.2	46.4	30.5	13.2	6.9	3.4	5.4	2.1	24.1	2.0
女性	(n=1,311)	53.4	52.0	30.4	10.8	5.8	7.1	4.0	1.8	20.1	0.7

【20～44 歳未婚・結婚意向者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」(京都府)(2014 年)】

〈参考：全国調査〉

図表 III-2-9-2 居住地の自治体に期待する結婚支援事業

		結婚祝い金の支給	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給	出会いの場・婚活イベントの提供・実施	結婚相談窓口の設置	交際術、ファッションの講座の実施	結婚観・人生観等についての講座の実施	国際結婚を支援するための事業	その他	特に起こってもらいたい事業はない	無回答
全体	(n=373)	40.5	39.4	28.7	10.2	7.0	5.1	5.1	1.1	31.1	0.3
男性	(n=192)	38.0	36.5	26.6	10.9	8.9	4.2	3.1	2.1	32.8	-
女性	(n=181)	43.1	42.5	30.9	9.4	5.0	6.1	7.2	-	29.3	0.6

【20～44 歳未婚・結婚意向者、「京都府少子化要因実態調査・全国意識調査」(京都府)(2014 年)】

- いずれの性・年代でも、「新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給」と「結婚祝い金の支給」への期待が大きい（図表 III-2-9-3）。
- 「出会いの場・婚活イベントの提供」は第3位にあげられているが、男性30代と女性の20代後半以降で、他の年代よりも希望する者の割合が高い。

図表 III-2-9-3 居住地の自治体に期待する結婚支援事業（年代別）

		n						(%)
全 体		(2,422)	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	
			新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (50.0)	結婚祝い金の支給 (49.3)	出会いの場・婚活イベントの提供 (30.7)	結婚相談窓口の設置 (11.9)	交際術、ファッション、マナー講座 (6.3)	
男 性	20～24歳	(340)	結婚祝い金の支給 (50.5)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (47.2)	出会いの場・婚活イベントの提供 (29.7)	結婚相談窓口の設置 (11.0)	交際術、ファッション、マナー講座 (8.1)	
	25～29歳	(239)	結婚祝い金の支給 (46.1)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (46.0)	出会いの場・婚活イベントの提供 (26.5)	結婚相談窓口の設置 (8.3)	交際術、ファッション、マナー講座 (6.7)	
	30～34歳	(195)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (51.1)	結婚祝い金の支給 (43.2)	出会いの場・婚活イベントの提供 (37.3)	結婚相談窓口の設置 (15.7)	結婚観・人生観等についての講座等 (7.6)	
	35～39歳	(159)	結婚祝い金の支給 (42.6)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (39.5)	出会いの場・婚活イベントの提供 (34.4)	結婚相談窓口の設置 (23.0)	結婚観・人生観等についての講座等 (7.9)	
	40～44歳	(145)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (43.9)	結婚祝い金の支給 (43.6)	出会いの場・婚活イベントの提供 (27.0)	結婚相談窓口の設置 (14.7)	国際結婚を支援するための事業 (6.5)	
女 性	20～24歳	(416)	結婚祝い金の支給 (55.8)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (55.6)	出会いの場・婚活イベントの提供 (19.7)	結婚相談窓口の設置 (8.5)	国際結婚を支援するための事業 (6.9)	
	25～29歳	(362)	結婚祝い金の支給 (61.3)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (61.0)	出会いの場・婚活イベントの提供 (37.1)	結婚相談窓口の設置 (8.9)	国際結婚を支援するための事業 (8.8)	
	30～34歳	(231)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (55.3)	結婚祝い金の支給 (52.3)	出会いの場・婚活イベントの提供 (36.1)	結婚相談窓口の設置 (13.6)	交際術、ファッション、マナー講座 (7.0)	
	35～39歳	(179)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (42.1)	結婚祝い金の支給 (38.3)	出会いの場・婚活イベントの提供 (32.8)	結婚相談窓口の設置 (15.6)	国際結婚を支援するための事業 (8.4)	
	40～44歳	(120)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (36.9)	出会いの場・婚活イベントの提供 (32.3)	結婚祝い金の支給 (30.4)	結婚相談窓口の設置 (12.1)	国際結婚を支援するための事業 (7.5)	

【20～44 歳未婚・結婚意向者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」（京都府）（2014 年）】

○就労状況別にみると（図表 III-2-9-4）、正規雇用者・非正規雇用者ともに、「新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給」と「結婚祝い金の支給」への期待が上位 2 項目を占めるが、男女とも正規雇用者の方が多くあげている。

図表 III-2-9-4 居住地の自治体に期待する結婚支援事業（就労状況別）

(%)

		n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体		(2,422)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (50.0)	結婚祝い金の支給 (49.3)	出合いの場・婚活イベントの提供 (30.7)	結婚相談窓口の設置 (11.9)	交際術、ファッション、マナー講座 (6.3)
男 性	正 規 雇 用	(512)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (50.9)	結婚祝い金の支給 (47.8)	出合いの場・婚活イベントの提供 (34.6)	結婚相談窓口の設置 (11.0)	交際術、ファッション、マナー講座 (6.4)
	非 正 規 雇 用	(217)	結婚祝い金の支給 (44.8)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (40.9)	出合いの場・婚活イベントの提供 (26.1)	結婚相談窓口の設置 (15.6)	交際術、ファッション、マナー講座 (10.2)
	その他有職	(59)	結婚祝い金の支給 (39.9)	出合いの場・婚活イベントの提供 (29.4)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (28.1)	結婚相談窓口の設置 (11.9)	交際術、ファッション、マナー講座 (3.8)
	学 生	(193)	結婚祝い金の支給 (50.3)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (49.2)	出合いの場・婚活イベントの提供 (25.4)	結婚相談窓口の設置 (12.6)	交際術、ファッション、マナー講座 (5.4)
	その他無職	(87)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (39.2)	結婚祝い金の支給 (35.5)	出合いの場・婚活イベントの提供 (31.0)	結婚相談窓口の設置 (19.2)	結婚観・人生観等についての講座等 (7.6)
女 性	正 規 雇 用	(612)	結婚祝い金の支給 (58.7)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (57.4)	出合いの場・婚活イベントの提供 (32.4)	結婚相談窓口の設置 (12.0)	国際結婚を支援するための事業 (5.5)
	非 正 規 雇 用	(391)	結婚祝い金の支給 (49.3)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (49.1)	出合いの場・婚活イベントの提供 (32.0)	結婚相談窓口の設置 (9.4)	国際結婚を支援するための事業 (6.5)
	その他有職	(46)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (53.0)	結婚祝い金の支給 (38.1)	出合いの場・婚活イベントの提供 (33.3)	結婚観・人生観等についての講座等 (11.0)	結婚相談窓口の設置 (9.3)
	学 生	(181)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (52.6)	結婚祝い金の支給 (43.9)	出合いの場・婚活イベントの提供 (16.3)	国際結婚を支援するための事業 (14.3)	交際術、ファッション、マナー講座 (12.4)
	その他無職	(76)	新婚夫婦対象の住宅提供、補助金支給 (43.8)	結婚祝い金の支給 (41.1)	出合いの場・婚活イベントの提供 (39.6)	結婚相談窓口の設置 (14.4)	交際術、ファッション、マナー講座 (9.8)

【20～44 歳未婚・結婚意向者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」（京都府）（2014 年）】

(10) 結婚相手と知り合ったきっかけ

- 既婚者が結婚相手と知り合ったきっかけは、「職場や仕事の関係で」「友人や兄弟姉妹を通じて」「同じ学校に在学して」が上位3項目。
- 自治体の「婚活イベント」は、きっかけとしては1%未満と少数。

- 「京都府民意識調査」から、既婚者が結婚相手と知り合ったきっかけをみると（図表 III-2-10-1）、男女とも「職場や仕事の関係で」「友人や兄弟姉妹を通じて」「同じ学校に在学して」が上位3項目となっている。
- 「見合いで（親せき・上司などの紹介を含む）」と「結婚相談所で」は、それぞれ1～2%台である。
- 「居住都道府県内の婚活イベントで」と「居住都道府県外の婚活イベントで」は、いずれも1%未満となっている。
- 全国調査も、府民調査と同じ傾向である（図表 III-2-10-2）。

図表 III-2-10-1 結婚相手と知り合ったきっかけ

															(%)
		職場や仕事の関係で	友人や兄弟姉妹を通じて	同じ学校に在学して	学校以外のサークル活動やクラブ活動・習いごとで	アルバイトで	街なかや旅先で	見合いで（親せき・上司などの紹介を含む）	結婚相談所で	幼なじみ・隣人関係	居住都道府県内の婚活イベントで	居住都道府県外の婚活イベントで	その他	無回答	
全 体	(n=4,725)	34.4	26.6	13.5	5.1	4.5	4.0	2.6	1.5	1.4	0.8	0.3	4.2	1.2	
男 性	(n=1,690)	31.3	26.8	15.2	5.5	4.4	4.8	2.2	2.0	1.2	0.7	0.2	4.5	1.2	
女 性	(n=2,998)	36.2	26.4	12.6	4.8	4.5	3.7	2.9	1.2	1.5	0.8	0.3	4.0	1.2	

【20～44 歳既婚者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」（京都府）（2014 年）】

〈参考：全国調査〉

図表 III-2-10-2 結婚相手と知り合ったきっかけ

		(%)													
		職場や仕事の関係で	友人や兄弟姉妹を通じて	同じ学校に在学して	学校以外のサークル活動やクラブ活動・習いごとで	街なかや旅先で	アルバイトで	見合いで（親せき・上司などの紹介を含む）	幼なじみ・隣人関係	居住都道府県内の婚活イベントで	結婚相談所で	居住都道府県外の婚活イベントで	その他	無回答	
全 体	(n=793)	31.8	28.6	14.0	7.2	5.8	3.9	2.4	1.6	0.9	0.6	0.1	2.8	0.3	
男 性	(n=335)	29.9	24.2	16.4	8.7	6.0	3.6	3.0	2.1	1.8	0.9	0.3	3.0	0.3	
女 性	(n=458)	33.2	31.9	12.2	6.1	5.7	4.1	2.0	1.3	0.2	0.4	—	2.6	0.2	

【20～44 歳既婚者、「京都府少子化要因実態調査・全国意識調査」（京都府）（2014 年）】

○就労状況別にみても（図表 III-2-10-3）、いずれの就労状況でも上位 3 項目は「職場や仕事の関係で」「友人や兄弟姉妹を通じて」「同じ学校に在学して」である。

図表 III-2-10-3 結婚相手と知り合ったきっかけ（就労状況別）

																(%)
		職場や仕事の関係で	友人や兄弟姉妹を通じて	同じ学校に在学して	学校以外のサークル活動やクラブ活動・習いごと	アルバイトで	街なかや旅先で	(親せき・上司などの紹介を含む)	見合い	結婚相談所	幼なじみ・隣人関係	居住都道府県内の婚活イベントで	居住都道府県外の婚活イベントで	その他	無回答	
男性	全体 (n=4,725)	34.4	26.6	13.5	5.1	4.5	4.0	2.6	1.5	1.4	0.8	0.3	4.2	1.2		
	正規雇用 (n=1,277)	30.8	27.0	15.4	6.0	4.8	4.2	2.1	2.0	1.1	0.5	0.2	4.8	1.1		
	非正規雇用 (n=117)	35.5	23.9	10.5	2.6	4.5	4.5	3.0	2.4	1.8	—	1.8	6.3	3.3		
	その他有職 (n=264)	30.0	28.3	17.0	4.0	2.5	8.1	2.2	1.5	1.6	1.4	—	2.9	0.5		
女性	正規雇用 (n=752)	40.2	23.5	12.9	5.2	3.7	3.9	2.0	1.1	0.8	1.2	0.2	4.3	1.1		
	非正規雇用 (n=1,129)	37.7	25.5	12.8	3.9	5.7	3.6	2.3	1.1	1.8	0.5	0.4	3.8	0.9		
	その他有職 (n=259)	32.4	28.4	10.2	6.0	4.6	3.6	6.0	0.4	0.4	0.9	—	6.6	0.6		
	その他無職 (n=829)	32.2	29.5	12.6	5.0	3.9	3.5	3.5	1.7	1.9	0.9	0.5	3.2	1.7		

【20～44 歳既婚者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意調査」（京都府）（2014 年）】

(11) 未婚者の状況

- 京都府の未婚男性は 20 代後半から 30 代後半でも、非正規雇用者が 4 分の 1 弱である。女性には逆に、未婚女性の方が既婚女性よりも、正規雇用者が多くなっている。
- 全国意識調査の結果と比べて、京都府の未婚者に非正規雇用者が際立って多いわけではないが、「京都府民意識調査」結果では全国調査と比べて、未婚者のひとり暮らし率が高く、親との同居率が低い。
- 既婚者の結婚のきっかけは、「見合いで(親せき・上司などの紹介を含む)」が少なく、「職場や仕事の関係で」「友人や兄弟姉妹を通じて」「同じ学校に在学して」が多い。結婚のきっかけとしては、日常的な生活の中の交流から、同年代のつながりを介して知り合うケースが多いと考えられる。
- 結婚する条件として、未婚者は「経済的な余裕」を多くあげているが、京都府の未婚者の個人年収は全国に比しても高い水準とはいえず、ひとり暮らしも多いことから、住宅費の負担も大きくなっている。

- 「京都府民意識調査」の回答者について、婚姻状況別に現在の就労状況をみると（図表 III-2-11-1）、未婚男性は、「正社員・正職員」（正規雇用者）が43.8%、「学生」が18.8%である。「臨時雇用・パート・アルバイト」（12.6%）、「派遣社員」（1.2%）、「契約社員、嘱託」（5.5%）を合わせた非正規雇用者が2割弱である。
- 一方、既婚男性では、正規雇用者が76.8%、非正規雇用者が6.3%である。また、「自営業主・自由業者」が9.8%となっている。男性では既婚者の方が未婚者よりも、正規雇用者の割合が際立って高い。また、未婚男性では「無職（求職中）」の割合が7.4%と、既婚男性（1.1%）よりも高い。
- 女性をみると、未婚女性の正規雇用者の割合は4割台半ばだが、既婚女性の正規雇用者の割合は2割強にとどまる。女性では男性とは逆に、未婚者の方が既婚者よりも、正規雇用者の割合が高い。未婚女性の非正規雇用者は28.5%である。
- 全国調査の結果と比べると（図表 III-2-11-2）、京都府は未婚男性で「学生」が多く、正規雇用者が少ない。既婚男性や未婚女性・既婚女性では、大きな差はみられない。

図表 III-2-11-1 現在の就労状況（婚姻状況別）

		正社員・正職員	非正規雇用（計）	臨時雇用・パート・アルバイト	派遣社員	契約社員、嘱託	経営者、役員	自営業主・自由業者	家族従業者	内職	その他	無職（計）	学生	（求職中）	（無職中ではない）	無回答
全体	(n=7,593)	43.2	25.4	19.6	1.6	4.2	1.2	4.3	1.9	0.6	0.2	22.1	6.2	5.4	10.5	1.0
男未婚	(n=1,296)	43.8	19.2	12.6	1.2	5.5	0.5	3.8	0.5	-	0.0	30.6	18.8	7.4	4.4	1.7
性既婚	(n=1,690)	76.8	6.3	4.0	0.3	1.9	3.6	9.8	1.2	-	0.1	1.6	0.2	1.1	0.3	0.6
女未婚	(n=1,501)	45.3	28.5	18.7	3.9	5.9	0.1	2.7	1.2	0.3	0.4	21.3	13.6	4.5	3.2	0.2
性既婚	(n=2,998)	23.4	37.0	31.8	1.3	3.9	0.7	2.4	3.3	1.3	0.2	30.8	0.3	7.5	23.0	0.8

【20～44歳、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」（京都府）（2014年）】

〈参考：全国調査〉

図表 III-2-11-2 現在の就労状況（婚姻状況別）

		正社員・正職員	非正規雇用（計）	パート・アルバイト	派遣社員	契約社員、嘱託	経営者、役員	自営業主・自由業者	家族従業者	内職	その他	無職（計）	学生	（求職中）	（無職中ではない）	無回答
全体	(n=1,226)	45.1	29.3	23.9	1.5	3.9	1.6	3.9	2.1	0.4	0.1	16.9	3.3	4.6	9.1	0.6
男未婚	(n=221)	52.5	23.1	17.2	1.8	4.1	0.9	3.2	1.8	-	-	17.6	8.6	8.1	0.9	0.9
性既婚	(n=335)	74.6	8.1	4.5	0.3	3.3	4.5	9.0	2.4	-	-	0.9	-	-	0.9	0.6
女未婚	(n=209)	45.9	32.5	22.5	2.9	7.2	-	1.4	0.5	-	-	19.6	10.0	6.2	3.3	-
性既婚	(n=458)	19.7	46.5	42.1	1.5	2.8	0.7	1.7	2.8	1.1	-	27.1	-	5.5	21.6	0.4

【20～44歳、「京都府少子化要因実態調査・全国意識調査」（京都府）（2014年）】

- 未婚者の就労状況を年代別にみると（図表 III-2-11-3）、男性 20～24 歳では「学生」が過半数を占め、正規雇用者が 23.8%、非正規雇用者が 12.3%となっている。
- 未婚男性では 25 歳以降、正規雇用者が増加するが、20 代後半から 30 代前半で 5 割台半ば、30 代後半から 40 代前半で 4 割台後半にとどまっている。20 代後半から 30 代では非正規雇用者が 4 分の 1 弱を占めている。40～44 歳では、非正規雇用者は 15.8%に下がるが、「無職（求職中）」が 13.8%、「無職（求職中ではない）」が 9.1%と高くなっている。
- 未婚女性の 20～24 歳では「学生」が 4 割を占めるが、正規雇用者が 37.7%、非正規雇用者が 17.9%である。
- 男性と同様、女性でも 25 歳以降、正規雇用者が増加し、20 代後半から 30 代前半で 5 割強、30 代後半で 4 割台半ば、40 代前半で 4 割となっている。非正規雇用者は 25 歳以降 3 割台前半で、年代によって大きな差はみられない。「無職（求職中）」「無職（求職中ではない）」は、いずれの年代でも、それぞれ 1 割未満にとどまっている。

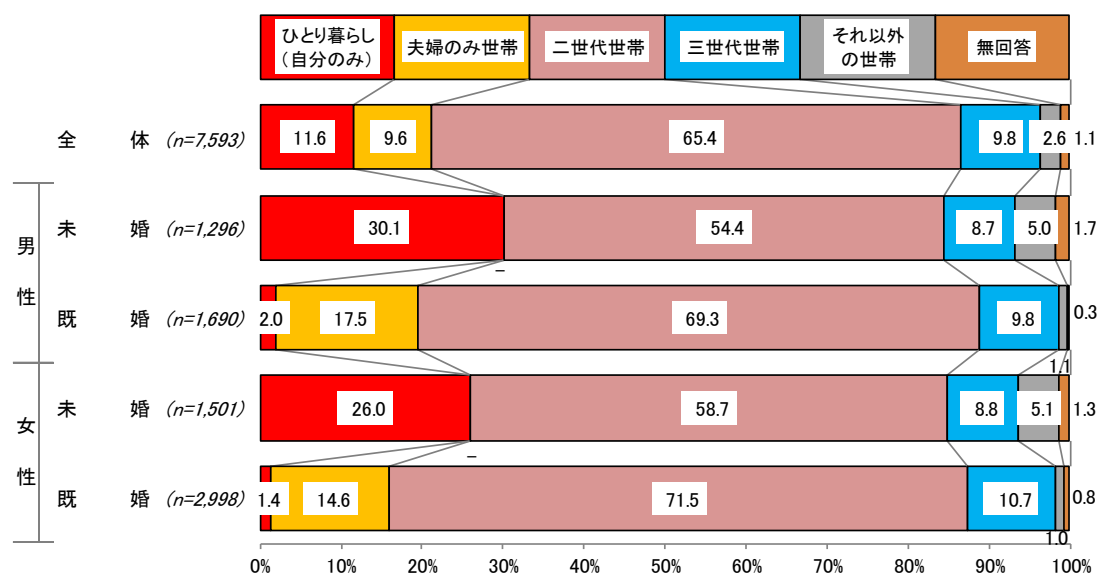
図表 III-2-11-3 未婚者の現在の就労状況（年代別）

		正社員・正職員	非正規雇用（計）	パート・アルバイト・臨時雇用	派遣社員	契約社員、嘱託	経営者、役員	自営業主・自由業者	家族従業者	内職	その他	無職（計）	学生	（求職中）	（求職中ではない）	無回答
全 体 (n=2,836)		44.5	24.5	16.0	2.7	5.8	0.3	3.2	0.9	0.1	0.3	25.3	15.8	5.9	3.7	0.9
男 性	20～24 歳 (n=374)	23.8	12.3	11.0	—	1.3	—	—	—	—	—	61.2	55.0	4.0	2.1	2.7
	25～29 歳 (n=276)	55.2	23.6	14.3	0.6	8.7	—	2.2	0.3	—	—	18.7	8.3	6.7	3.7	—
	30～34 歳 (n=239)	56.3	24.0	14.7	1.9	7.4	0.9	5.9	0.9	—	0.1	10.3	1.1	5.6	3.6	1.6
	35～39 歳 (n=202)	48.3	24.6	14.6	1.7	8.4	0.1	7.1	0.8	—	—	17.8	1.0	10.9	6.0	1.3
	40～44 歳 (n=199)	47.8	15.8	8.8	2.8	4.1	2.0	7.0	1.1	—	—	23.9	1.0	13.8	9.1	2.4
女 性	20～24 歳 (n=451)	37.7	17.9	13.7	2.6	1.6	—	0.5	0.4	—	0.4	42.5	39.5	2.0	1.0	0.5
	25～29 歳 (n=392)	52.4	31.0	20.0	4.6	6.4	0.1	1.8	1.4	—	0.6	12.7	5.6	4.4	2.7	0.0
	30～34 歳 (n=265)	50.7	33.4	21.6	4.1	7.6	0.6	2.4	0.9	—	0.7	11.3	1.3	6.7	3.3	—
	35～39 歳 (n=209)	45.1	35.9	19.9	5.1	10.9	—	5.3	2.5	0.5	—	10.7	1.1	4.6	5.0	0.1
	40～44 歳 (n=179)	40.5	33.6	22.3	4.0	7.2	0.1	7.5	2.1	1.0	0.1	15.0	1.0	7.5	6.5	0.0

【20～44 歳未婚者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」（京都府）（2014 年）】

- 「京都府民意識調査」から、婚姻状況別に世帯構成をみると（図表 III-2-11-4）、未婚男性の30.1%、未婚女性の26.0%は「ひとり暮らし」である。
- 全国調査では（図表 III-2-11-5）、未婚男性の16.3%、未婚女性の12.9%がひとり暮らしであり、全国と比して京都府は未婚者のひとり暮らし比率が高い。

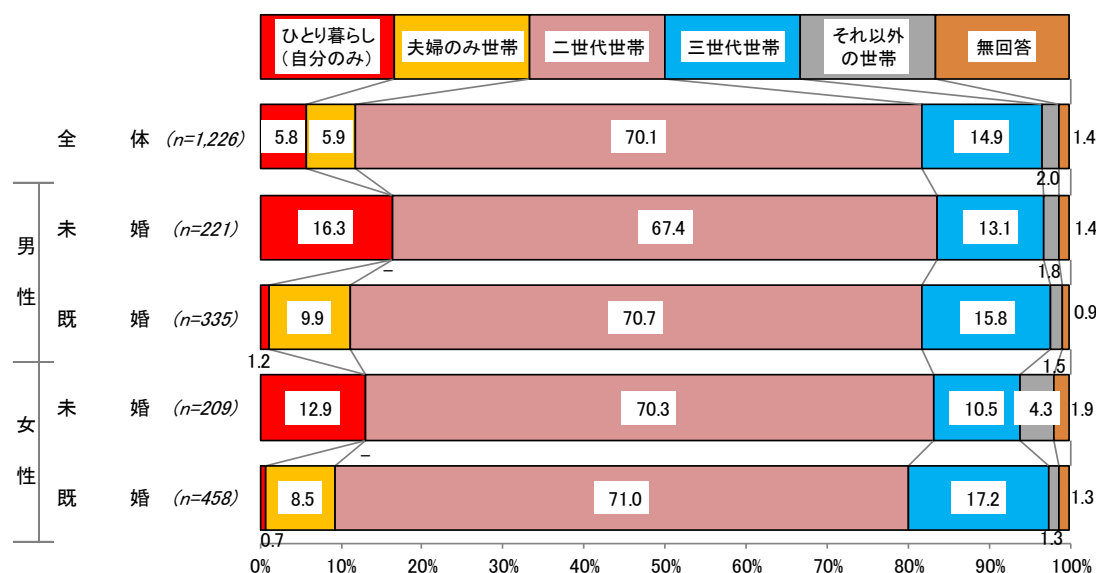
図表 III-2-11-4 世帯構成（婚姻状況別）



【20～44 歳、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」（京都府）（2014 年）】

＜参考：全国調査＞

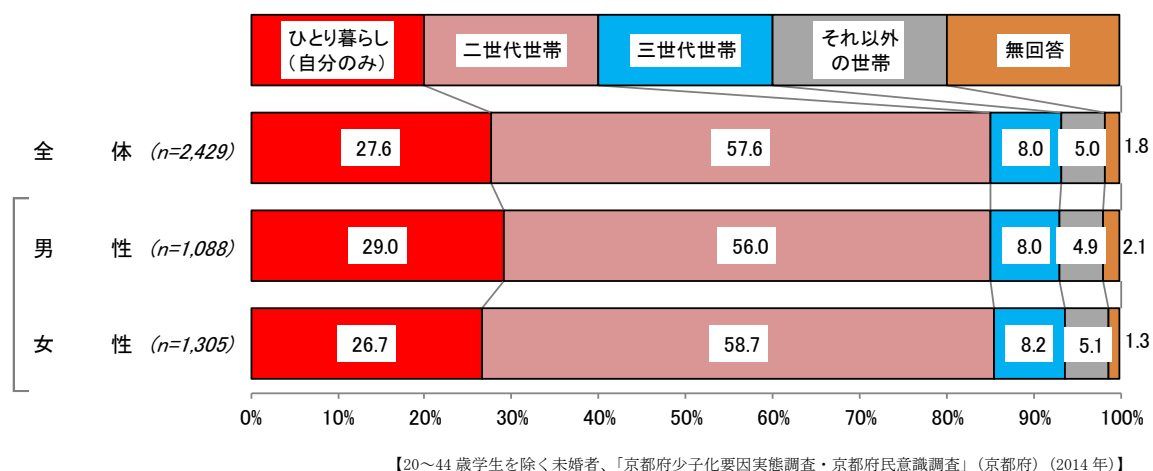
図表 III-2-11-5 世帯構成（婚姻状況別）



【20～44 歳、「京都府少子化要因実態調査・全国意識調査」（京都府）（2014 年）】

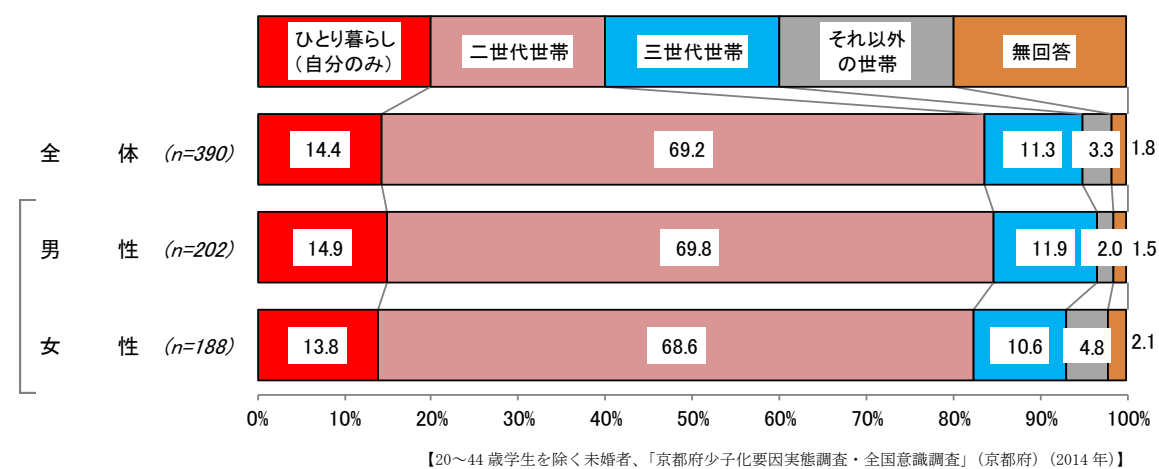
○学生を除いた未婚者の世帯構成をみても、全国と比して、京都府は未婚者のひとり暮らし比率が高い（図表 III-2-11-6・III-2-11-7）。

図表 III-2-11-6 学生を除いた未婚者の世帯構成



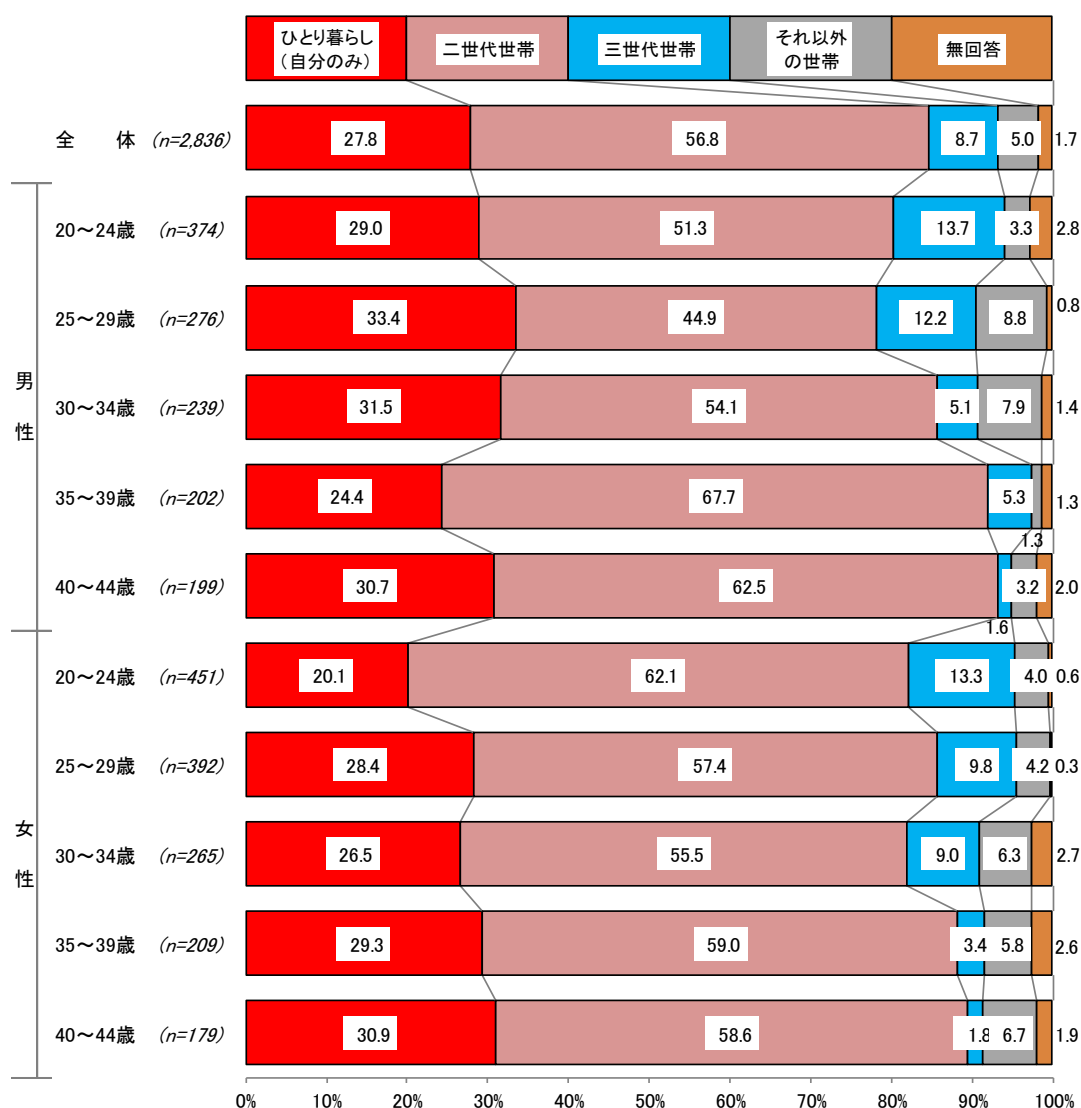
〈参考：全国調査〉

図表 III-2-11-7 学生を除いた未婚者の世帯構成



○未婚者の世帯構成を年代別にみると（図表 III-2-11-8）、いずれの性・年代でも 2 割から 3 割強がひとり暮らしである。

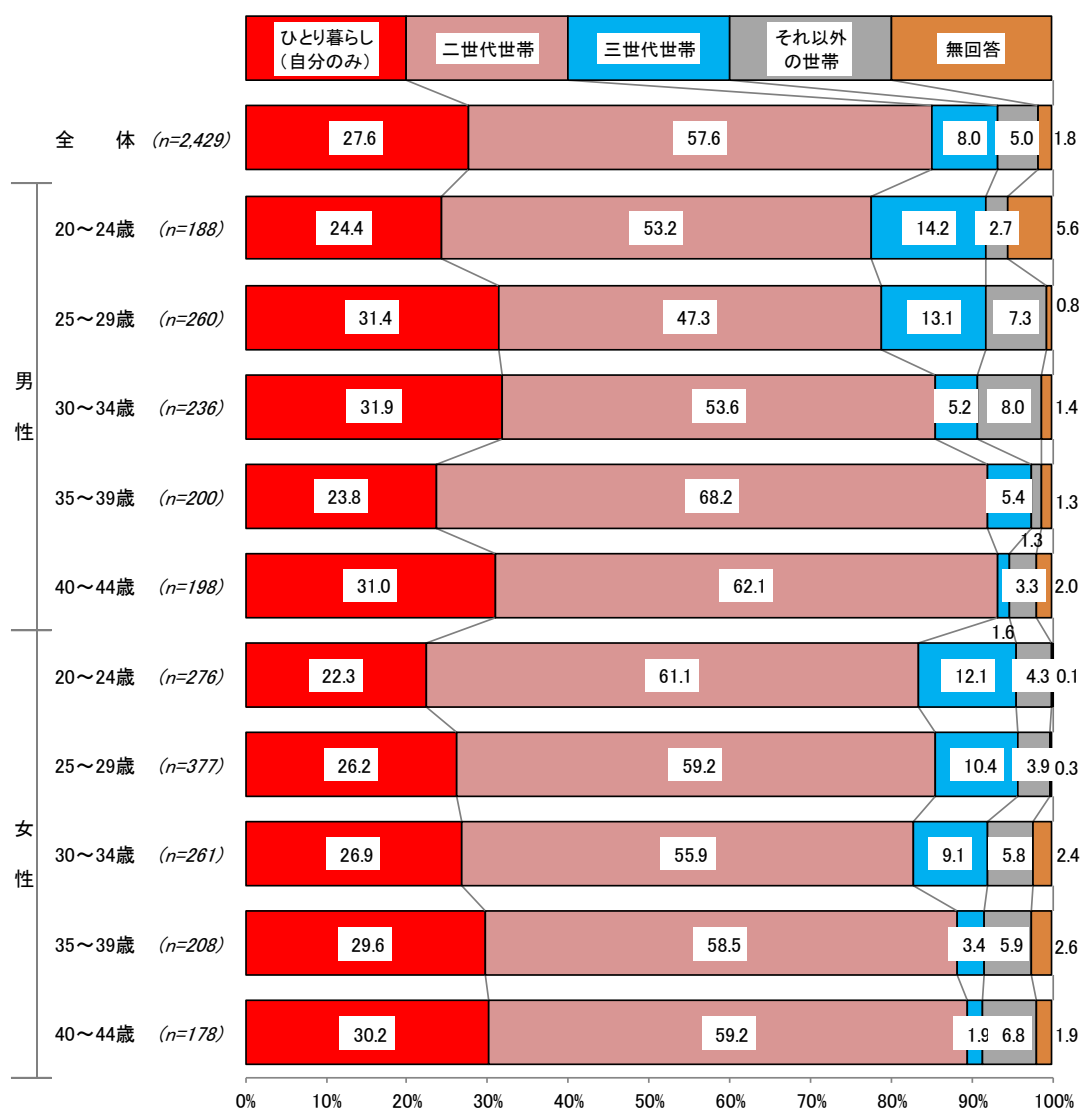
図表 III-2-11-8 未婚者の世帯構成（年代別）



【20～44 歳未婚者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意調査」（京都府）（2014 年）】

○学生を除いても、京都府の未婚者はいずれの性・年代でも 2 割から 3 割強がひとり暮らしである（図表 III-2-11-9）。

図表 III-2-11-9 学生を除く未婚者の世帯構成（年代別）

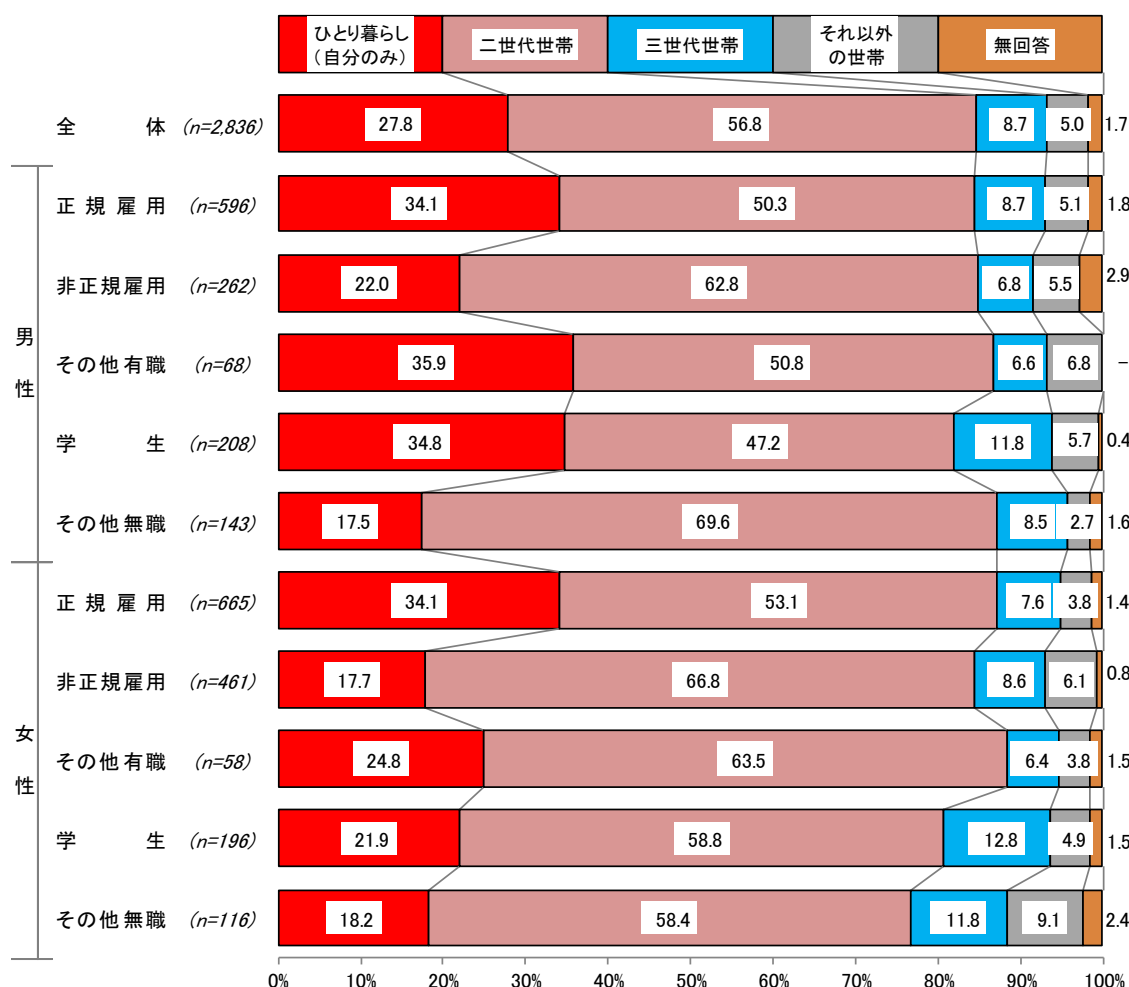


【20～44 歳学生を除く未婚者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」（京都府）（2014 年）】

○未婚者の世帯構成を就労状況別にみると、男性では、非正規雇用者は「ひとり暮らし」が 22.0%と他の就労者よりも少ないものの、全国の未婚者一般のひとり暮らしの割合よりも高い（図表 III-2-11-10・III-2-11-11）。

○女性は、正規雇用者で「ひとり暮らし」が 3 割を超えており、男性正規雇用者、学生、その他有職者と同程度で、女性の他の就労形態よりも高い。

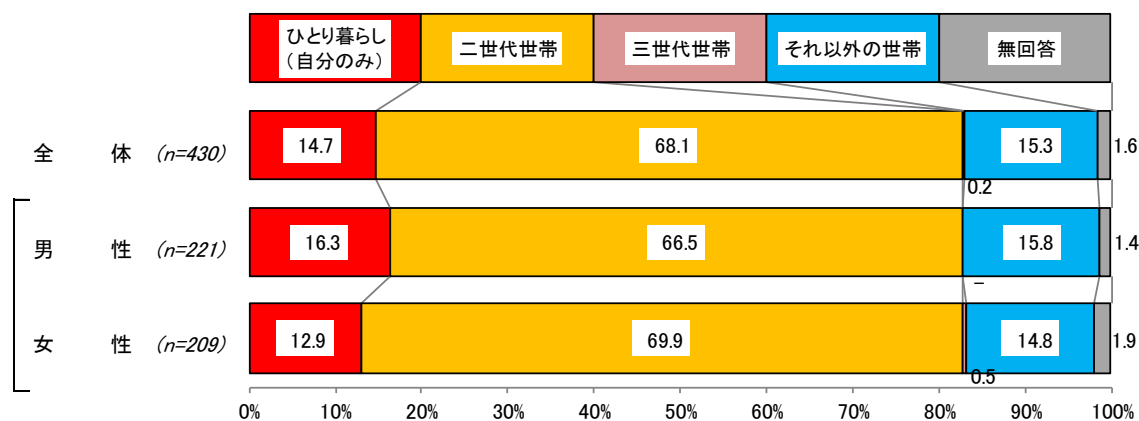
図表 III-2-11-10 未婚者の世帯構成（就労状況別）



【20～44 歳未婚者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意調査」（京都府）（2014 年）】

〈参考：全国調査〉

図表 III-2-11-11 未婚者の世帯構成（男女別）

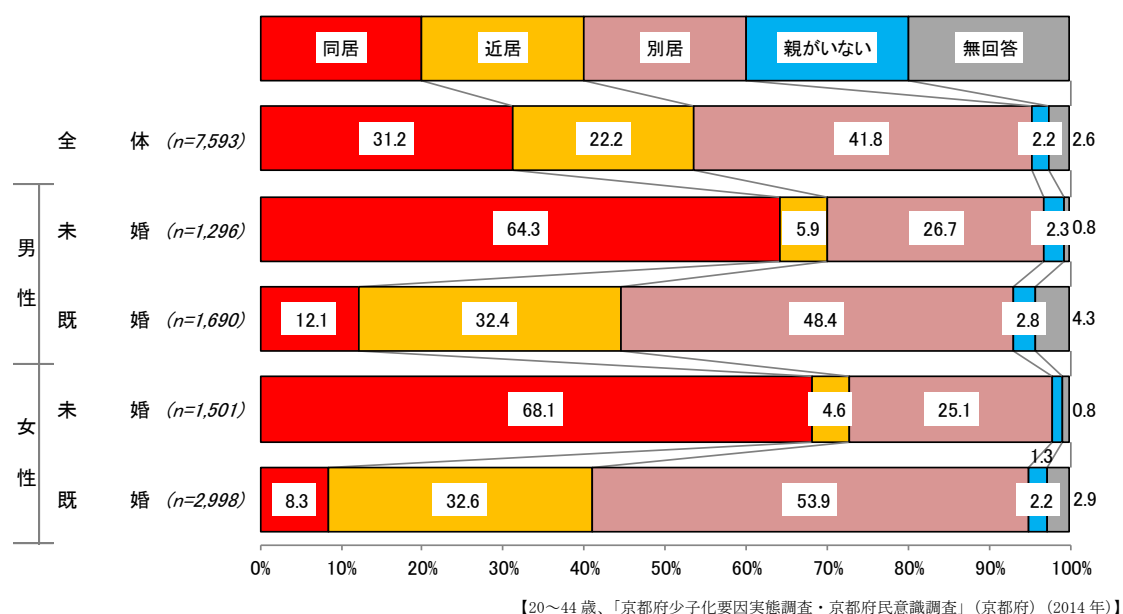


【20～44 歳未婚者、「京都府少子化要因実態調査・全国意識調査」（京都府）（2014 年）】

○「京都府民意調査」の未婚の回答者について、自分の親との同別居の状況をみると（図表 III-2-11-12）、未婚男性の 64.3%、未婚女性の 68.1%は親と「同居」しており、片道 30 分未満の「近居」は男女とも 1 割未満である。「別居」（片道 30 分以上）は男女とも 2 割台半ばである。

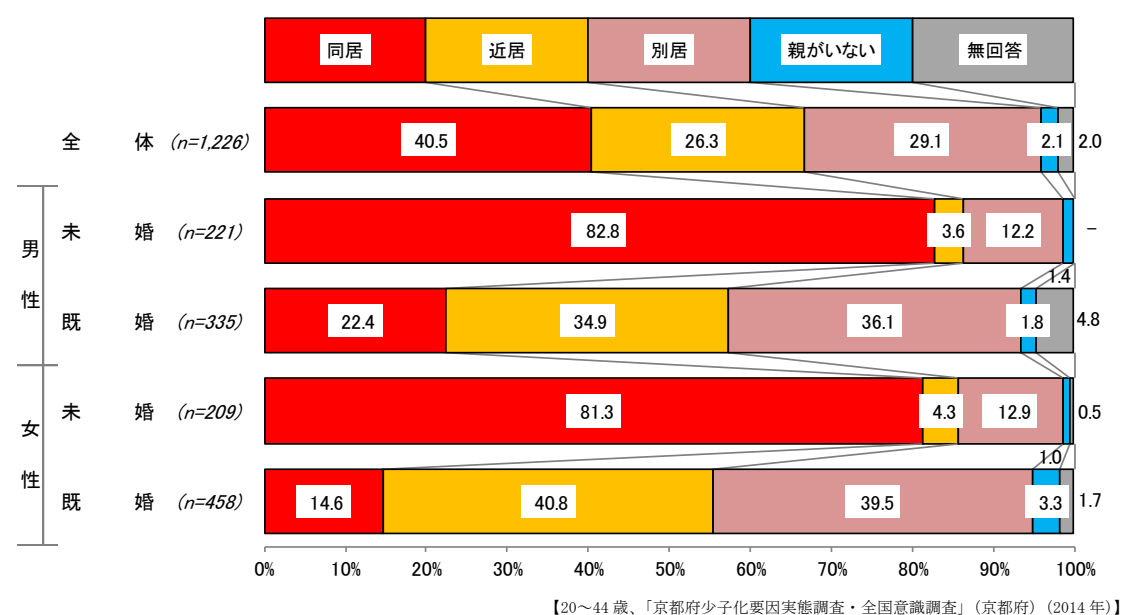
○全国調査では（図表 III-2-11-13）、未婚者は男女とも 8 割強が親と同居し、別居は 1 割台にとどまり、府民よりも同居率が高い。

図表 III-2-11-12 自分の親の居住地（婚姻状況別）



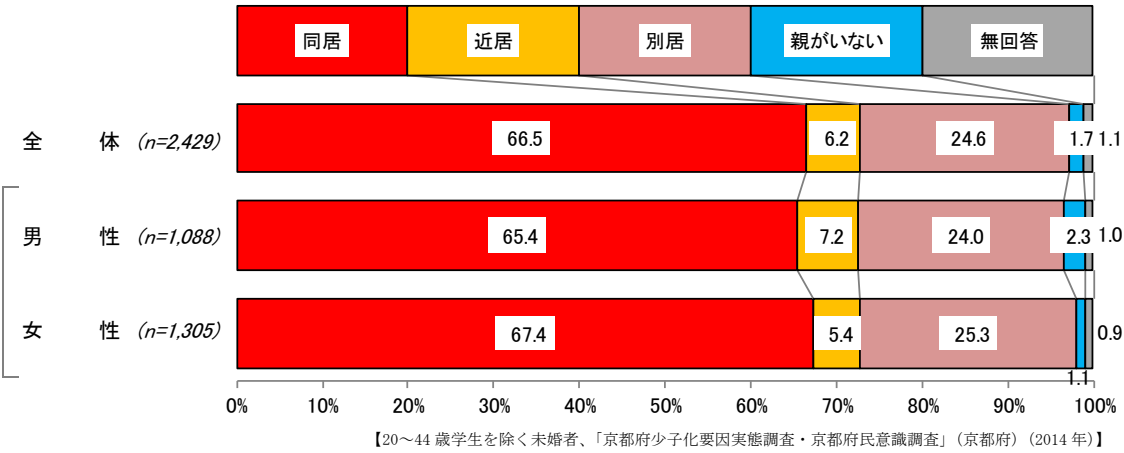
〈参考：全国調査〉

図表 III-2-11-13 自分の親の居住地（婚姻状況別）



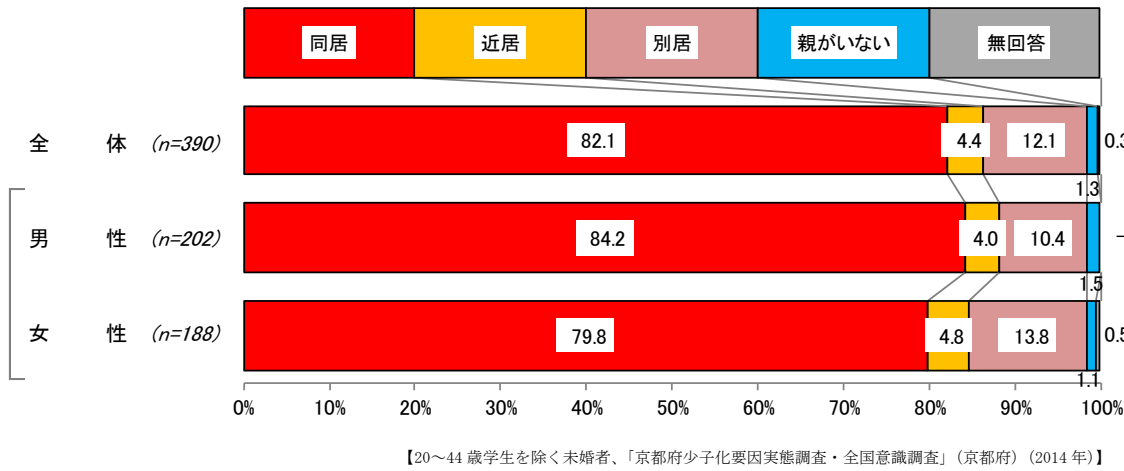
○学生を除く未婚者の親との同居・近居の状況をみても、京都府では全国と比べて、「同居」が少なく、「別居」が多い（図表 III-2-11-14・III-2-11-15）。

図表 III-2-11-14 学生を除く未婚者の親の居住地



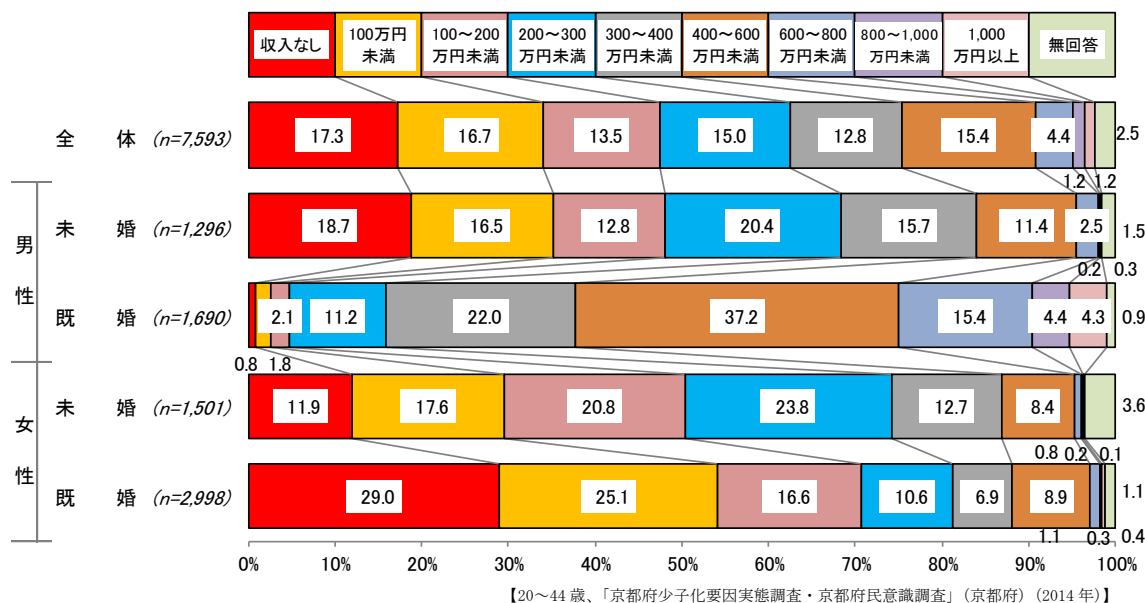
〈参考：全国調査〉

図表 III-2-11-15 学生を除く未婚者の親の居住地



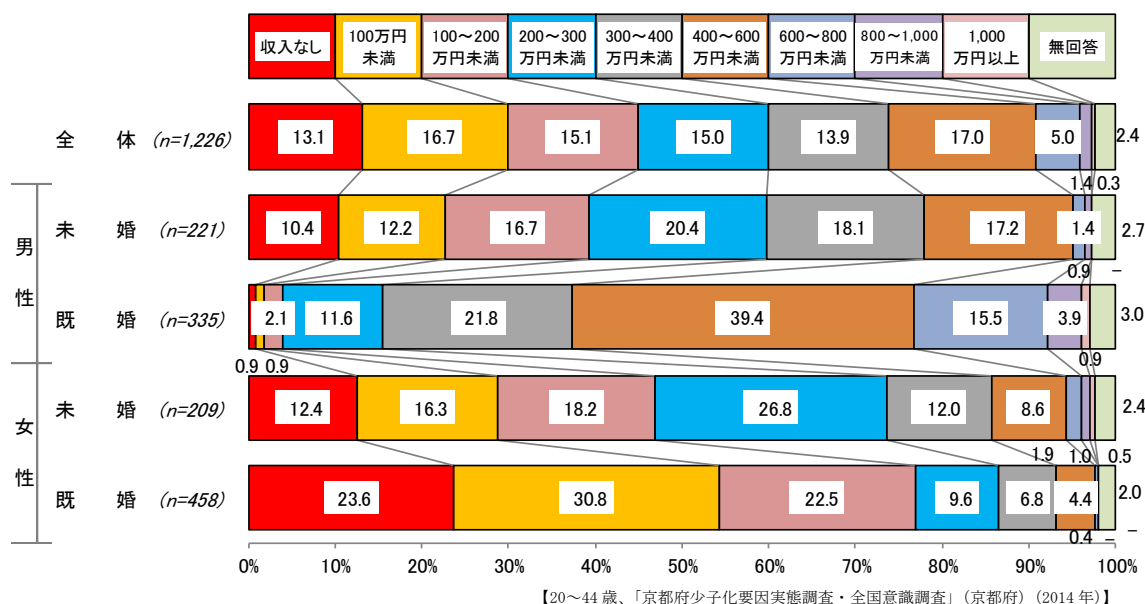
- 「京都府民意識調査」から、回答者の昨年の本人年収（税込）の状況をみると（図表 III-2-11-16）、未婚男性では 7 割弱が、未婚女性では 7 割台半ばが年収 300 万円未満である。
- 全国調査では（図表 III-2-11-17）、年収 300 万円未満は未婚男性の 6 割、未婚女性の 7 割強であり、京都府の未婚者の年収は必ずしも高いわけではない。

図表 III-2-11-16 昨年の本人年収（税込）（婚姻状況別）



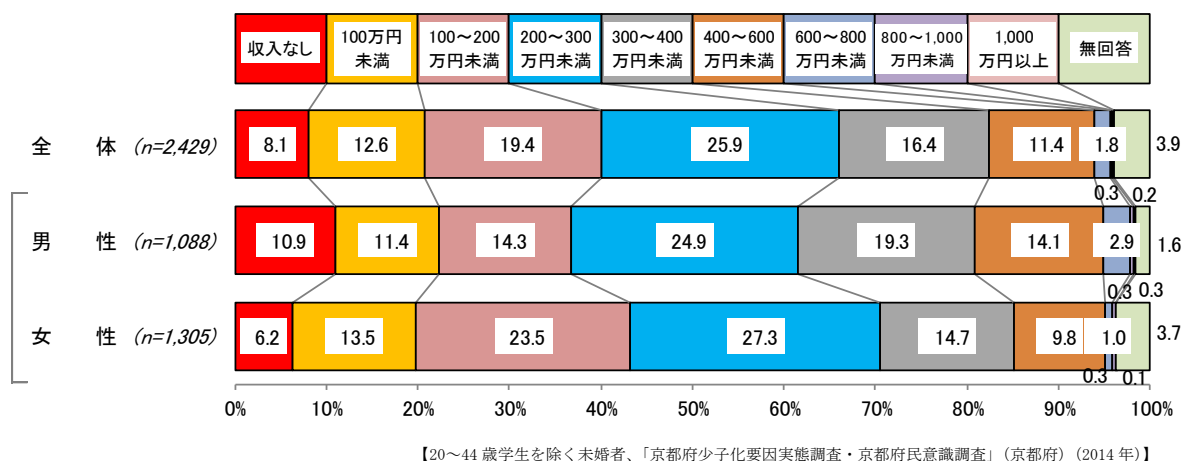
〈参考：全国調査〉

図表 III-2-11-17 昨年の本人年収（税込）（婚姻状況別）



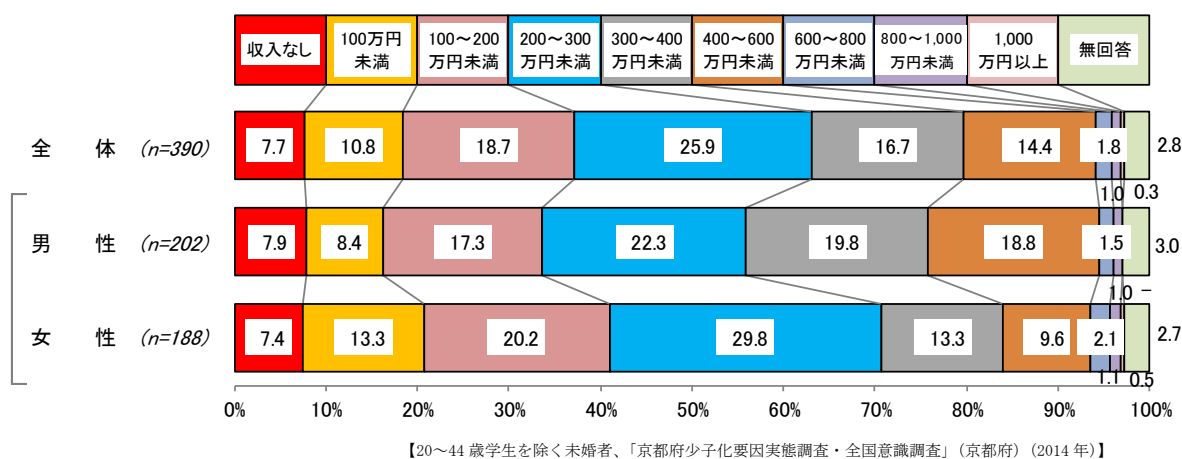
- 「京都府民意識調査」から、学生を除いた未婚者の昨年の本人年収（税込）の状況をみると（図表 III-2-11-18）、男性の6割強、女性の7割が年収300万円未満である。
- 全国調査から、学生を除いた未婚者の年収をみると（図表 III-2-11-19）、男性の5割台半ば、女性の7割が年収300万円未満であり、学生を除いても、京都府の未婚者の年収は全国平均並み、もしくは低めとなっている。

図表 III-2-11-18 学生を除く未婚者の昨年の本人年収（税込）



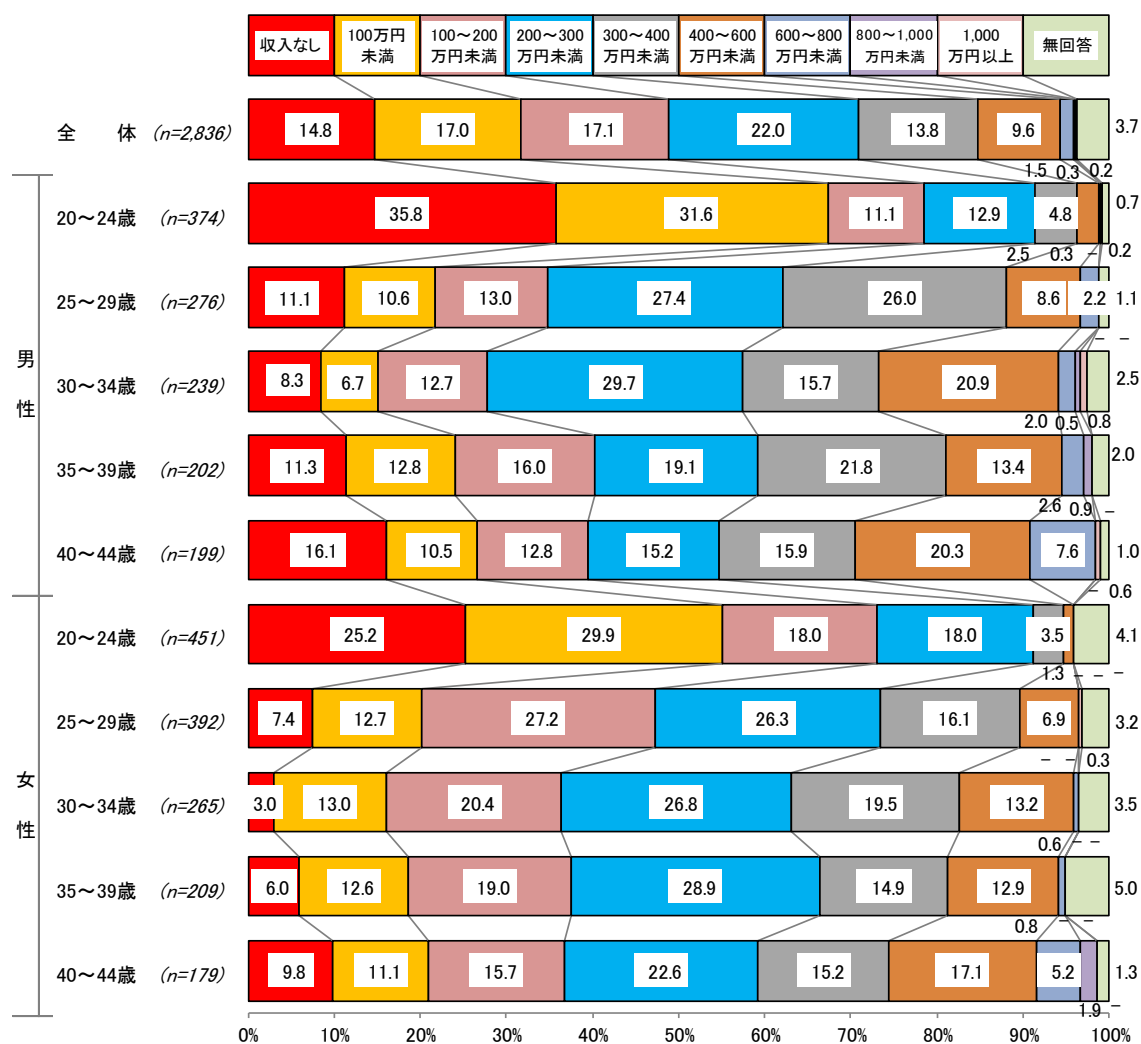
〈参考：全国調査〉

図表 III-2-11-19 学生を除く未婚者の昨年の本人年収（税込）



- 未婚者の本人年収を年代別にみると（図表 III-2-11-20）、学生が多数を占める 20～24 歳では、男女とも 9 割強が年収 300 万円未満である。
- 男性 25～29 歳では、年収 300 万円未満が 6 割強まで減少するが、30 代から 40 代前半でも、年収 300 万円未満の層が 5 割台半ばから 6 割と、多数を占める。
- 女性 25～29 歳では、年収 300 万円未満の層が 7 割台前半であるが、30 代から 40 代前半でも、年収 300 万円未満の層が 6 割前後となっている。

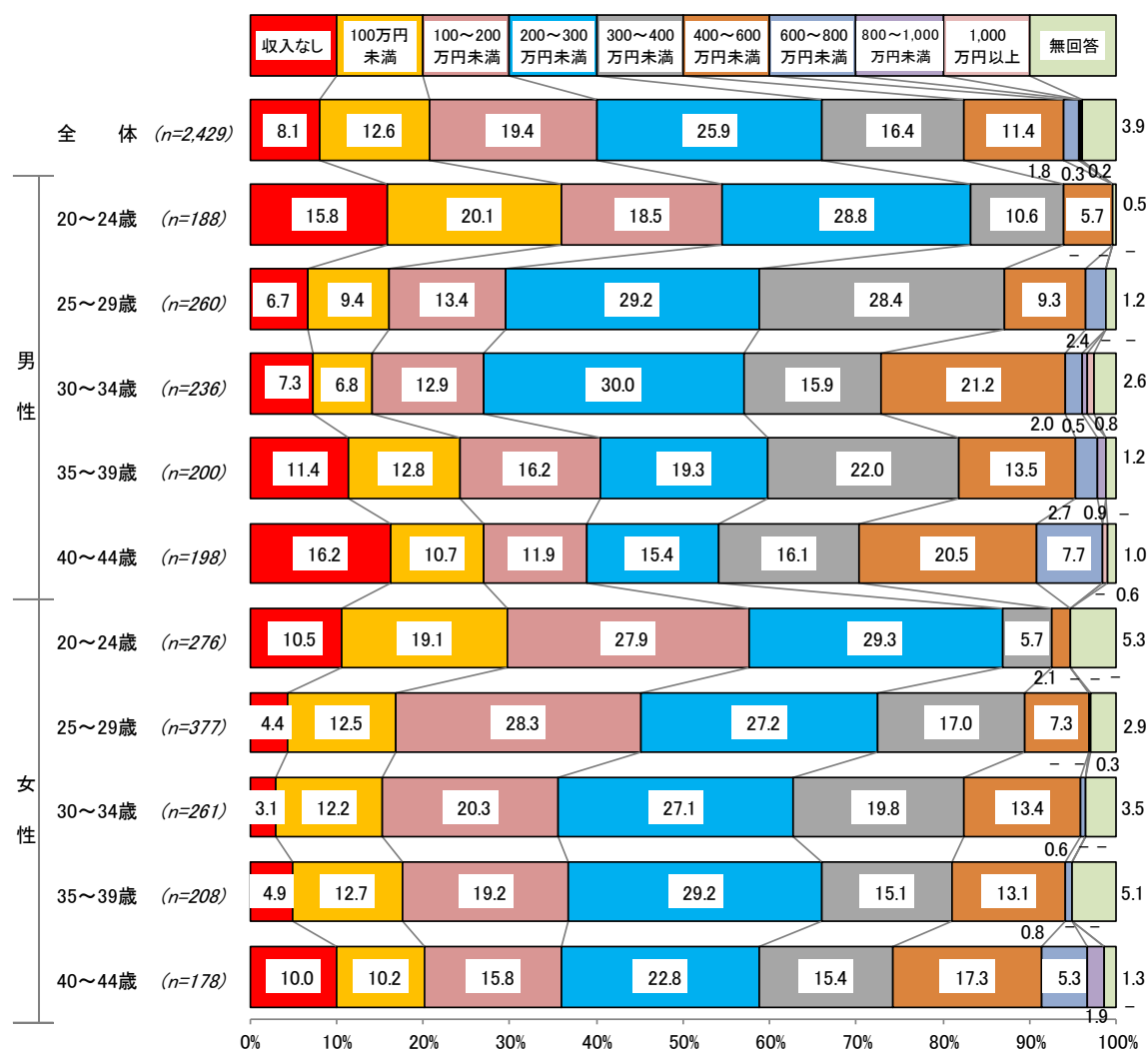
図表 III-2-11-20 未婚者の昨年の本人年収（税込）（年代別）



【20～44 歳未婚者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」（京都府）（2014 年）】

- 学生を除く未婚者の本人年収を年代別にみても（図表 III-2-11-21）、20～24 歳では、男女とも 8 割以上が年収 300 万円未満である。
- 男性 20 代後半から 40 代前半でも、年収 300 万円未満の層が 5 割台を占める。
- 女性では、年収 300 万円未満の層が、20 代後半で 7 割台前半、30 代で 6 割台、40 代前半で 5 割台後半となっている。

図表 III-2-11-21 学生を除く未婚者の昨年の本人年収（税込）（年代別）

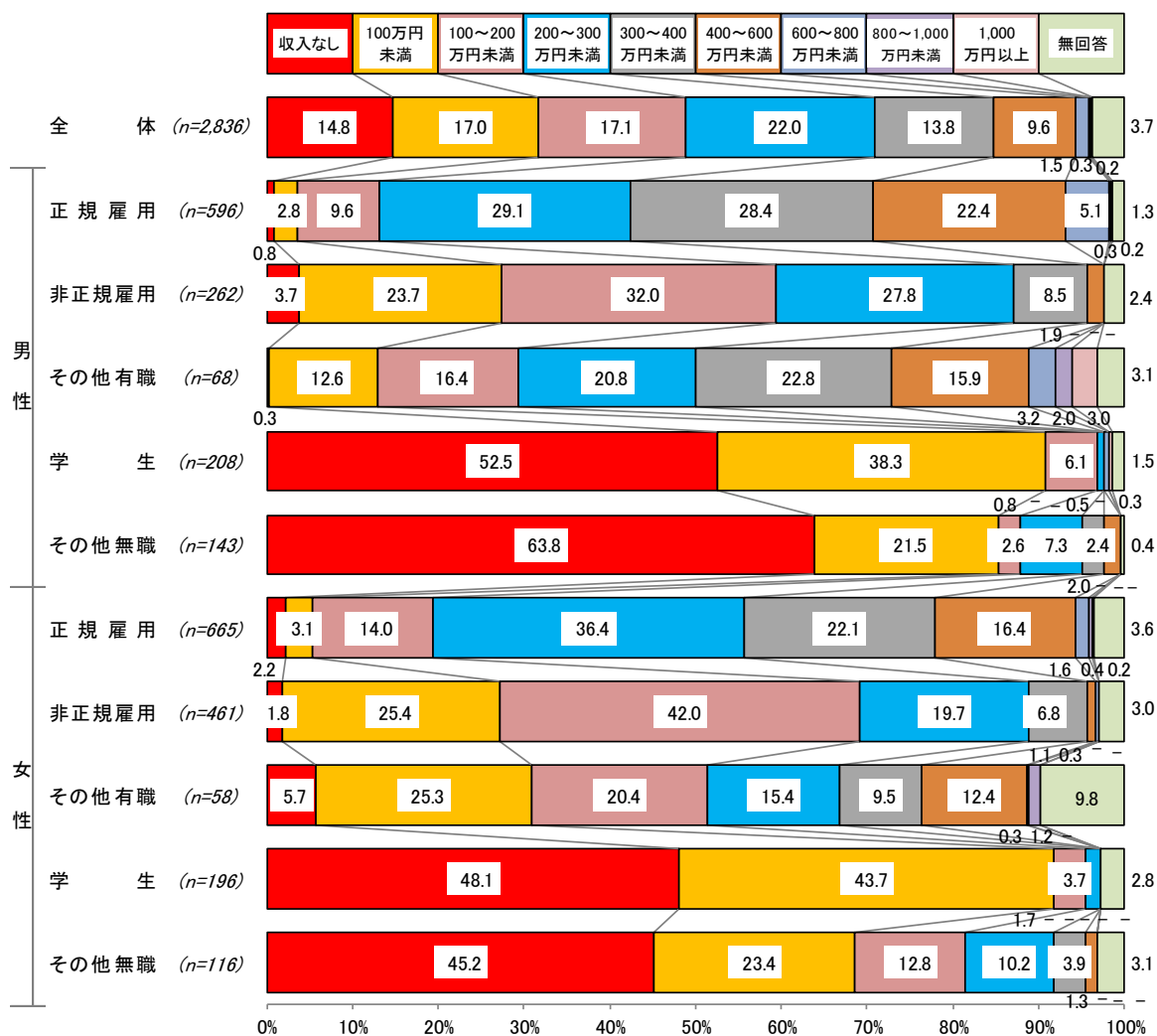


【20～44 歳学生を除く未婚者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意調査」（京都府）（2014 年）】

○未婚者の本人年収を就労状況別にみると（図表 III-2-11-22）、男性の正規雇用者では、年収 300 万円未満の層は 4 割台前半だが、非正規雇用者では 8 割台後半と大多数を占める。

○女性でも、正規雇用者では年収 300 万円未満の層は 5 割台半ばだが、非正規雇用者では 8 割台後半である。

図表 III-2-11-22 未婚者の昨年の本人年収（税込）（就労状況別）



【20～44 歳未婚者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意調査」（京都府）（2014 年）】

- 「京都府民意識調査」から、回答者の1ヵ月あたりの住宅費（家賃や住宅ローンなど）の状況をみると（図表 III-2-11-23）、未婚者は男女とも「なし」が4割弱と最も多いが、未婚男性では「3～5万円未満」「5～7万円未満」がそれぞれ1割台半ば、未婚女性では「5～7万円未満」が2割と多くなっている。一方、既婚者では、男女とも「7～9万円未満」が2割台半ばで最も多い。
- 全国調査では（図表 III-2-11-24）、未婚男性の4割台半ば、未婚女性の5割は住宅費の負担「なし」と回答し、京都府民の未婚者の方が住宅費の負担が大きくなっている。既婚者では、男女とも「5～7万円未満」と「7～9万円未満」がそれぞれ2割前後となっている。

図表 III-2-11-23 1ヵ月あたりの住宅費（家賃や住宅ローンなど）（婚姻状況別）

			なし	3万円未満	3～5万円未満	5～7万円未満	7～9万円未満	9～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20～25万円未満	25万円以上	無回答
全 体		(n=7,593)	22.8	6.6	9.4	17.8	18.2	9.5	9.4	1.9	0.4	0.3	3.7
男 性	未 婚	(n=1,296)	38.1	9.7	14.7	14.7	7.6	3.6	4.0	0.9	0.3	0.4	5.9
	既 婚	(n=1,690)	11.2	6.1	7.2	18.2	24.5	15.1	13.6	2.5	0.1	0.4	1.0
女 性	未 婚	(n=1,501)	39.6	6.0	9.8	20.3	7.6	3.1	4.4	1.2	0.4	0.2	7.6
	既 婚	(n=2,998)	14.0	5.9	8.3	17.6	24.9	12.4	11.9	2.3	0.6	0.3	1.6

【20～44歳、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」（京都府）（2014年）】

〈参考：全国調査〉

図表 III-2-11-24 1ヵ月あたりの住宅費（家賃や住宅ローンなど）（婚姻状況別）

			なし	3万円未満	3～5万円未満	5～7万円未満	7～9万円未満	9～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20～25万円未満	25万円以上	無回答
全 体		(n=1,226)	27.0	6.2	11.3	16.2	15.9	6.6	11.1	2.0	0.3	0.6	2.9
男 性	未 婚	(n=221)	45.7	7.2	17.6	8.6	5.9	4.1	5.0	0.9	—	0.5	4.5
	既 婚	(n=335)	16.7	5.7	11.0	20.0	21.5	7.2	13.4	1.5	0.6	0.9	1.5
女 性	未 婚	(n=209)	49.8	6.2	6.7	12.0	7.2	5.3	4.8	1.4	—	0.5	6.2
	既 婚	(n=458)	15.3	6.1	10.5	19.0	20.7	8.1	15.1	3.1	0.4	0.4	1.3

【20～44歳、「京都府少子化要因実態調査・全国意識調査」（京都府）（2014年）】

- 「京都府民意識調査」と「全国意識調査」から、学生を除く未婚者の1ヵ月にかかる住宅費（家賃や住宅ローンなど）の状況をみても（図表 III-2-11-25・III-2-11-26）、学生を含む未婚者の状況と大きく変わらない。
- 京都府の未婚者の住宅費負担は、学生を除いても、全国に比べてやや大きい。京都府の未婚者の個人年収は、学生を除いて全国に比しても高い水準ではなく、負担が大きいと考えられる。

図表 III-2-11-25 学生を除く未婚者の1ヵ月あたりの住宅費（家賃や住宅ローンなど）

		(%)										
		なし	3万円未満	3～5万円未満	5～7万円未満	7～9万円未満	9～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20～25万円未満	25万円以上	無回答
全 体	(n=2,429)	39.1	8.2	11.5	18.5	7.3	3.3	4.3	1.0	0.4	0.2	6.4
男 性	(n=1,088)	37.8	10.6	14.6	14.8	7.1	3.8	3.7	0.9	0.3	0.2	6.1
女 性	(n=1,305)	40.3	6.1	9.3	21.3	7.5	3.0	4.7	1.1	0.4	0.1	6.1

【20～44 歳学生を除く未婚者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」（京都府）（2014 年）】

〈参考：全国調査〉

図表 III-2-11-26 学生を除く未婚者の1ヵ月あたりの住宅費
（家賃や住宅ローンなど）

		(%)										
		なし	3万円未満	3～5万円未満	5～7万円未満	7～9万円未満	9～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20～25万円未満	25万円以上	無回答
全 体	(n=390)	48.2	7.4	12.3	10.0	6.4	4.4	4.9	1.3	—	0.5	4.6
男 性	(n=202)	46.0	7.9	16.8	8.4	5.9	4.0	5.4	1.0	—	0.5	4.0
女 性	(n=188)	50.5	6.9	7.4	11.7	6.9	4.8	4.3	1.6	—	0.5	5.3

【20～44 歳学生を除く未婚者、「京都府少子化要因実態調査・全国意識調査」（京都府）（2014 年）】

○未婚者の1ヵ月にかかる住宅費を年代別にみると（図表 III-2-11-27）、いずれの性・年代でも、住宅費の負担は「なし」という回答が最も多い。学生が多数を占める20～24歳男性では、「3～5万円未満」と「5～7万円未満」が1割台となっている。男性の20代後半から30代前半では、次いで「5～7万円未満」が多いが、30代後半から40代前半では「3～5万円未満」がやや多い。

○女性では、いずれの年代でも「5～7万円未満」が、住宅費負担「なし」に次いで多くなっている。

図表 III-2-11-27 未婚者の1ヵ月あたりの住宅費（家賃や住宅ローンなど）（年代別）^(%)

		なし	3万円未満	3～5万円未満	5～7万円未満	7～9万円未満	9～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20～25万円未満	25万円以上	無回答
性	全 体 (n=2,836)	38.8	7.7	11.9	17.8	7.6	3.2	4.3	1.0	0.3	0.3	7.1
	20～24歳 (n=374)	37.7	7.9	15.9	12.5	8.0	3.5	5.6	0.5	0.6	0.8	6.9
	25～29歳 (n=276)	36.5	12.9	11.6	15.3	8.6	4.6	3.4	0.9	—	0.1	6.0
	30～34歳 (n=239)	30.5	13.8	17.2	22.6	7.1	1.2	2.1	—	—	—	5.4
	35～39歳 (n=202)	44.8	9.2	11.1	8.4	7.8	4.7	4.4	2.7	—	1.0	5.9
	40～44歳 (n=199)	43.1	4.7	17.5	15.3	6.0	3.9	3.5	0.9	0.6	—	4.4
	20～24歳 (n=451)	37.8	6.2	7.1	19.6	6.8	3.7	3.9	1.1	0.4	0.2	13.2
	25～29歳 (n=392)	38.1	6.8	12.8	19.6	7.8	4.8	3.9	1.1	—	0.0	5.0
	30～34歳 (n=265)	42.2	4.9	7.8	22.5	5.2	2.8	6.2	1.8	—	0.5	6.1
	35～39歳 (n=209)	39.4	6.1	9.5	20.7	11.3	0.9	3.5	0.8	1.7	—	6.2
	40～44歳 (n=179)	43.6	5.2	13.0	19.8	8.6	0.9	5.4	1.0	—	—	2.5

【20～44歳未婚者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」（京都府）（2014年）】

○学生を除く未婚者の1ヵ月にかかる住宅費を年代別にみると（図表 III-2-11-28）、いずれの性・年代でも、住宅費の負担は「なし」という回答が最も多い。次いで、20代前半の男性では「3～5万円未満」が、男性20代後半から30代前半では「5～7万円未満」が多いが、30代後半から40代前半では「3～5万円未満」がやや多い。

○女性では、いずれの年代でも「5～7万円未満」が、住宅費の負担「なし」に次いで多くなっている。

図表 III-2-11-28 学生を除く未婚者の1ヵ月あたりの住宅費（家賃や住宅ローンなど）（年代別）（%）

			なし	3万円未満	3～5万円未満	5～7万円未満	7～9万円未満	9～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20～25万円未満	25万円以上	無回答
全 体 (n=2,429)			39.1	8.2	11.5	18.5	7.3	3.3	4.3	1.0	0.4	0.2	6.4
男 性	20～24歳 (n=188)		33.0	12.6	17.4	11.3	6.3	4.0	5.2	－	1.2	－	9.1
	25～29歳 (n=260)		38.0	12.6	10.9	14.9	7.9	5.1	3.8	0.9	－	0.2	5.8
	30～34歳 (n=236)		30.6	13.1	17.4	22.9	7.2	1.2	2.2	－	－	－	5.5
	35～39歳 (n=200)		45.2	9.2	11.2	7.6	7.8	4.7	4.5	2.7	－	1.0	6.0
	40～44歳 (n=198)		42.5	4.7	17.7	15.5	6.0	4.0	3.6	0.9	0.6	－	4.5
女 性	20～24歳 (n=276)		37.2	7.8	7.1	23.0	5.7	3.8	4.9	0.8	0.7	－	8.9
	25～29歳 (n=377)		40.2	6.8	10.2	19.8	7.8	5.0	3.7	1.1	－	0.0	5.3
	30～34歳 (n=261)		42.4	4.3	7.9	22.8	5.3	2.5	6.3	1.8	－	0.6	6.1
	35～39歳 (n=208)		38.7	6.1	9.6	20.9	11.4	0.9	3.5	0.8	1.7	－	6.3
	40～44歳 (n=178)		44.0	5.2	12.1	20.0	8.7	0.9	5.5	1.0	－	－	2.6

【20～44歳学生を除く未婚者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」（京都府）（2014年）】

○未婚者の1ヵ月にかかる住宅費を就労状況別にみると（図表 III-2-11-29）、男性では正規雇用者・非正規雇用者による、住宅費の大きな差はみられない。

○女性では、正規雇用者よりも非正規雇用者で、住宅費の負担は「なし」という回答が多い。正規雇用者では「5～7万円未満」が26.4%で、非正規雇用者を10ポイント上回っている。

図表 III-2-11-29 1ヵ月あたりの住宅費（家賃や住宅ローンなど）（就労状況別）（%）

			なし	3万円未満	3～5万円未満	5～7万円未満	7～9万円未満	9～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20～25万円未満	25万円以上	無回答										
全 体 (n=2,836)			38.8		7.7		11.9		17.8		7.6		3.2		4.3		1.0		0.3		0.3		7.1
男 性	正 規 雇 用 (n=596)		36.8		11.8		15.2		14.9		8.2		3.3		3.9		0.8		0.3		-		4.7
	非 正 規 雇 用 (n=262)		37.6		9.9		12.9		17.8		5.0		4.6		2.3		1.1		-		0.1		8.9
	そ の 他 有 職 (n=68)		32.1		6.5		16.9		12.7		7.3		6.3		11.6		-		2.0		3.1		1.5
	学 生 (n=208)		39.3		6.0		14.8		14.5		9.8		2.7		5.2		0.9		0.1		1.2		5.3
	そ の 他 無 職 (n=143)		45.3		9.1		14.1		10.4		6.2		3.8		2.8		1.3		0.1		0.2		6.7
女 性	正 規 雇 用 (n=665)		37.2		6.1		7.8		26.4		8.1		2.7		4.5		1.1		0.4		-		5.7
	非 正 規 雇 用 (n=461)		42.4		5.1		10.7		16.6		8.2		4.3		3.4		0.9		0.6		0.4		7.5
	そ の 他 有 職 (n=58)		48.6		5.1		4.9		15.4		3.7		-		15.2		2.5		-		-		4.5
	学 生 (n=196)		35.0		4.8		13.0		14.2		8.1		3.4		2.9		1.3		-		0.4		16.9
	そ の 他 無 職 (n=116)		44.4		10.4		16.1		12.9		4.1		2.1		3.9		1.4		-		-		4.8

【20～44歳未婚者、「京都府少子化要因実態調査・京都府民意識調査」（京都府）（2014年）】

(12) 施策課題

- 京都府の未婚率は男女とも全国トップレベルの高さであるが、未婚者の結婚意向は高く、とりわけ年代が若いほど、また、男性より女性でその傾向は顕著であり、希望すれば結婚できる条件や環境整備が求められている。
- 京都の未婚者は（学生を除く。）全国に比べて個人年収が高いとは言えないことや、ひとり暮らしの割合が高いことから経済的な不安を抱えている。
- 20代後半・30代前半女性は、結婚を決める条件として、「子どもが欲しくなる」ことをあげており、生物学的な妊娠・出産の正しい知識を得る機会や、出産・育児についてのポジティブなイメージを持つ機会が求められている。
- 結婚のきっかけとしては、「お見合い」的なものは少なくなっており、仕事・職場関係や、友人・兄弟姉妹、同窓生等、日常的な生活の交流から、同年代のつながりを介して知り合うケースが多い。京都府では、親元を離れてのひとり暮らしも多く、高校時代の友人関係や兄弟姉妹を通じての出会いの場が少なくなっていると考えられる。